

特定非営利活動法人
「日本で最も美しい村」連合
ご案内



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

2025年9月1日

もくじ

「日本で最も美しい村」連合とは／連合の目的 1
活動内容 2
認定の条件 3
加盟した町村地域として行う活動／加盟したことで得られるメリット/主な年間活動 4
加盟する町村地域と加盟状況 5
組織体制 6
これまでのあゆみ 7-9
加盟町村の取り組み 10
<優良事例紹介町村>	
北海道美瑛町 11
北海道江差町 12
北海道中札内村 13
北海道標津町 14
青森県田子町 15
青森県佐井村 16
秋田県小坂町 17
秋田県東成瀬村 18
山形県大蔵村 19
山形県飯豊町 20
群馬県昭和村 21
静岡県川根本町 22
長野県木曽町 23
長野県南木曽町 24
岐阜県下呂市馬瀬 25
岐阜県東白川村 26
京都府伊根町 27
京都府和束町 28
徳島県上勝町 29
鳥取県智頭町 30
長崎県小值賀町 31
宮崎県椎葉村 32
熊本県南小国町 33
鹿児島県喜界町 34
世界の最も美しい村連合会 35-37
サポーター企業一覧 38
ご支援の方法 39
2023年度活動の概要紹介 40

「日本で最も美しい村」連合とは

NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、2005年10月に設立。

「日本で最も美しい村」連合は、**失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観や環境・文化を守り、地域資源を生かしながら美しい村としての自立をめざす運動**を展開しています。

今、日本各地で脈々と受け継がれてきた美しいふるさとの風景が消えようとしています。黄金色に輝く秋の棚田や、古民家が連なる集落のたたずまい、五穀豊穣を願う祭りなどは、地域に根付いた暮らしの営みから育まれたもので、多くの人々の手で大切に守られてきました。しかし、過疎化や少子高齢化の流れが進むなかで人々が故郷から離れ、地域との関わりが希薄になると、田畠は荒れた山野となり、祭りの継続や集落の維持そのものが困難になっていきます。どんなに素晴らしい地域資源があっても、そこに人がいなければ、その価値を認めて応援し支え合う人々がいなければ、守り続けることは難しいのです。

美しい地域資源を持つそれぞれの町や村が自らのふるさとに誇りを持ち、切磋琢磨しながら自立した地域づくりに取り組むことは、日本の原風景を守ることにもつながります。自然と人間の営みが長い年月をかけてつくり上げた本当に美しい日本を未来に残したい、小さくてもオンリーワンの輝きを持つ日本の美しい村を守りたい—それが「日本で最も美しい村」連合の基本理念です。

連合の目的

この連合は、素晴らしい地域資源を持ちながら過疎にある美しい町や村が、「日本で最も美しい村」を宣言することで

- ① **自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと**
- ② **住民によるまちづくり活動を展開することで地域の活性化を図り、地域の自立を推進すること**
- ③ **生活の営みにより作られてきた景観や環境を守りこれらを活用することで観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展に寄与すること**

を目的としています。

活動内容

「日本で最も美しい村」の名称・ロゴマークの使用・普及

- 「日本で最も美しい村」連合の名称とロゴマークが良好な地域づくり、文化及び独自の保全地域を示す目印(ブランド)となるように活用します。

加盟町村地域相互の経験や研究の共有

- 定期総会、担当者会議などの各種交流会などを開催し、加盟町村地域の自立・発展のために、相互の経験や研究を共有する機会を持っています。
- オンライン大学など、オンラインで定期的に加盟町村地域の先進事例を学べる機会を設けています。
- 定期的に加盟町村地域間及び企業サポーター等との交流の場を設けています。

経済的価値の向上・社会的発展の促進

- 連合が目指す将来像の実現のため、経済的価値を高め、社会的発展を促します。
- 資格委員会が資格基準に基づき、新規加盟を希望する町村の審査を実施します。
- 加盟後も5年に1度の再審査を通じ、この連合の価値を維持するよう努めています。
- 世界の最も美しい村連合会の国際活動に参加します。

地域の魅力発信による交流人口の増加

- 公式ガイドブックの継続的な発行やフォトコンテストの開催、日本で最も美しい村まつりの開催を通じ、より多くの方に加盟町村地域の魅力を発信しています。
- 連合主催及び地域ごとに設置されている7つのブロック協議会によるイベントの開催や、町村をPRする商品の開発・販売支援を行っています。

景観や自然文化遺産を後世に引き継ぐための広報活動と世論形成

- SNSやホームページ等による広報活動を展開し、加盟町村地域の現状について多くの国民に理解を求め、その地域ならではの景観や自然文化遺産を後世に引き継ぐ必要性について世論を高めるための広報活動を行っています。
- U35みらい創造会議を開催し村の35歳以下の若者が村づくりに関わる機会を設けています。
- また、そのミッションに共感し、活動を支援してくださる企業、団体、個人によるサポーター会員制度の拡充を図ります。

日本で最も美しい村認定の条件

「日本で最も美しい村」連合では、加盟申請のあった町村への現地調査と厳正な審査のもと、加盟の可否が決定されます。加盟するには以下のような条件を満たしていることが必要です。審査基準はフランスの最も美しい村協会の基準を参考に日本独自の美しさを定義したものとなっています。日本の美しさの特徴として、ヨーロッパのような都市計画上や建築的な観点よりも、人々の生活の営みからつくられた景観であること、また南北に長い国土であるため、その文化の多様性が尊重されていることなどが挙げられます。

認定の条件

1

人口が概ね1万人以下であること

2

申請する自治体の議会の同意を得ていること

3

地域資源が二つ以上あること

- ・ 景観—生活の営みにより作られた景観（伝統的なまちなみや里山・里海）
- ・ 文化—昔ながらの祭りや芸能、郷土文化など

4

連合が評価する地域資源を生かす活動があること

- ・ 美しい景観に配慮したまちづくりを行っている
- ・ 住民による工夫した地域活動を行っている
- ・ 地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている

※地域会員の場合は、この他、申請する地域（旧自治体など）に規約を有する地域協議会などの団体があることが条件となります。

評価項目

(1)世襲財産の継承

- ・世襲財産を保護する公的な規制が存在する

(2)住民の自主的活動

- ・地域の価値を高め、発展させる努力
- ・地域の活力を高め、発展させるための住民の自主的な取り組み

(3)経済的自立

- ・入りを増やし、出を制する、経済的な自立を目指す努力

(4)首長の思いや、リーダーシップが発揮され、今後のビジョン展開が明白であること

格付判断基準

A：最も美しい村としての条件を十分満たしており、全加盟町村地域にとって模範的な状態である

B：最も美しい村の基本条件は満たしているが、まだ不十分な分野も一部あるため更なる改善努力が望まれる

C：最も美しい村として認められるだけの最低限の条件は満たしているが、不十分なところがまだ多くあり、抜本的な改善のための努力が望まれる

D：Cの基準に満たない（または該当がない）

加盟した町村地域として行う活動とは？

- 1 地域資源の存続、発展に継続的に取り組むこと
- 2 町村の主な入口に、ロゴマークと「日本で最も美しい村」連合名の標識を設置すること
- 3 加盟村が発行する定期刊行物、封筒、ポスターなどにロゴマークを使用すること
- 4 定期総会、学習会、各種イベントなどに参加すること
- 5 この連合のブランド価値を高めるための主催事業に積極的に参加すること

加盟したことでのメリット

- 1 自分たちの地域づくりにおいて「日本で最も美しい村づくりを行う」というビジョンを掲げて、これまで取り組んできた地域づくりの各種施策を再構築することができます。
- 2 名称とロゴマーク（商標登録済み）を使用することができます。
- 3 町村民や地元事業者などに、自らの地域を「日本で最も美しい村」として啓蒙し、自覚させ、自立的な地域づくりへの努力を促すことができます。
- 4 共通の課題を持つ町村が取り組んできた最善策（ベストプラクティス）や、より良くなるために乗り越えるべき水準（ベンチマーク）を学び合うことができます。
- 5 この連合は「世界の最も美しい村連合会」に加盟しており、国内外で美しい村連合への社会認知度が高まっていることで、加盟町村・地域にも注目が集まっています。

主な年間活動

- | | |
|-----|--|
| 4月 | 担当者会議（加盟する自治体や協議会の担当者が参加する研修の場） |
| 5月 | 世界の最も美しい村総会（各国の取り組みの情報共有の場。正加盟国持ち回り開催） |
| 6月 | 定期総会（加盟町村及び会員企業が参加する交流機会。加盟町村内で開催） |
| 10月 | 日本で最も美しい村まつり（首都圏にて一般の方向けに開催） |
| 10月 | サポーター交流会（加盟町村と会員企業の交流会を開催） |
| 10月 | ビューティフルデー（全国の加盟村内で清掃活動等を実施） |
| 適宜 | 資格審査（新規審査、5年ごと審査を実施※対象町村のみ） |

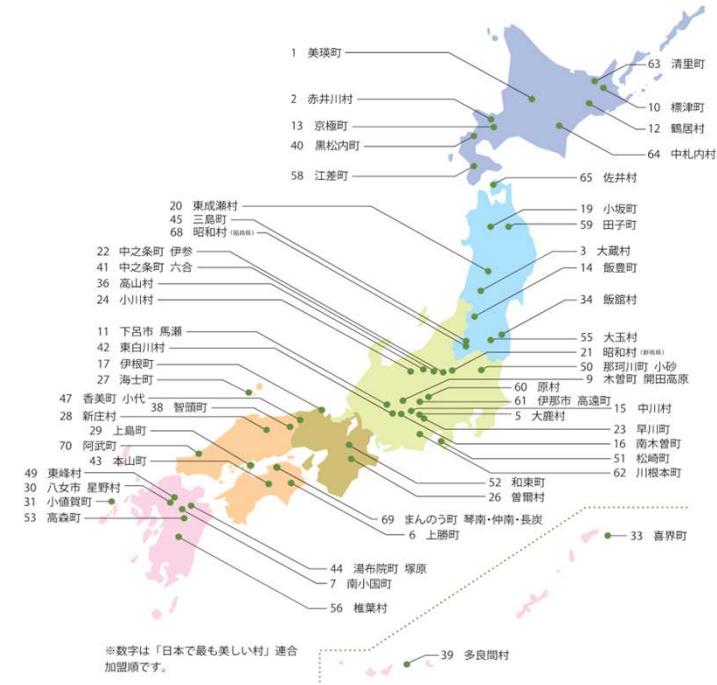
※この活動以外にも
様々な活動を行っています。

加盟する町村地域

2005年10月、7つの町村から始まった
 「日本で最も美しい村」連合は、
2025年9月現在57町村地域が加盟する
 ネットワークになっています。

※ 57町村地域 内訳：27町21村9地域

各加盟町村地域は、北海道、東北、
 関東・中部、近畿、中国・四国、
 九州・沖縄のいずれかのブロックに
 所属し、ブロック毎での連携活動も
 行っています。



加盟状況

加盟年	新規 加盟町村地域	退会 加盟町村地域
2005	北海道美瑛町、北海道赤井川村、山形県大蔵村、岐阜県白川村、長野県大鹿村、徳島県上勝町、熊本県南小国町	
2006	宮崎県高原町、長野県木曽町開田高原(現在木曽町として加盟)	
2007	北海道標津町、岐阜県下呂市馬瀬	
2008	北海道鶴居村、北海道京極町、山形県飯豊町、長野県中川村,長野県南木曽町、京都府伊根町、高知県馬路村	
2009	秋田県小坂町、秋田県東成瀬村、群馬県昭和村、群馬県中之条町伊参、山梨県早川町、長野県小川村、長野県池田町、奈良県曾爾村、島根県海士町、岡山県新庄村、愛媛県上島町、福岡県星野村、長崎県小值賀町、宮崎県綾町、鹿児島県喜界町	
2010	福島県飯館村、福島県北塩原村、長野県高山村、奈良県十津川村、鳥取県智頭町、沖縄県多良間村	
2011	北海道黒松内町、群馬県中之条町六合、岐阜県東白川村、高知県本山村、大分県由布市湯布院町塚原	
2012	福島県三島町、山梨県道志村、兵庫県香美町小代、奈良県吉野町、福岡県東峰村	
2013	栃木県那珂川町小砂、静岡県松崎町、京都府和束町、熊本県高森町、熊本県球磨村	
2014	福島県大玉村、宮崎県椎葉村	岐阜県白川村
2015	北海道滝川市江部乙、北海道江差町、青森県田子町、長野県原村、長野県伊那市高遠町、静岡県川根本町	山梨県道志村
2016	北海道清里町、北海道中札内村、青森県佐井村、青森県弘前市岩木	
2017		長野県池田町
2018		
2019	青森県西目屋村、福島県昭和村	宮崎県綾町
2020		北海道滝川市江部乙
2021	香川県まんのう町 琴南・仲南・長炭	青森県弘前市岩木、熊本県球磨村、宮崎県高原町
2022	山口県阿武町	奈良県十津川村
2023		高知県馬路村、福島県北塩原村
2024		青森県西目屋村、奈良県吉野町

「日本で最も美しい村」連合組織図

理事

サポーター

正会員
(企業・団体・個人)

準会員
(企業・団体・個人)

事務局
(事務局長、局員)

会長

副会長 (3名)

資格委員長・事業委員長

理事・監事
(各ブロック幹事、民間理事)

資格委員会
(委員長、副委員長、委員)
※資格審査委員含む

事業委員会
(委員長、副委員長、委員)

加盟町村地域 (57町村地域)

九州・沖縄
ブロック
(4町3村2地域)

首長・代表
|
担当者

四国・中国
ブロック
(6町1村1地域)

首長・代表
|
担当者

近畿
ブロック
(2町1村1地域)

首長・代表
|
担当者

関東・中部
ブロック
(5町7村5地域)

首長・代表
|
担当者

東北
ブロック
(4町6村)

首長・代表
|
担当者

北海道
ブロック
(6町3村)

首長・代表
|
担当者

■組織の構成

- ① 「定期総会（会員総会）」が最高議決機関として位置づけられています。
- ② 「理事会」は、会長と3名の副会長、16名の理事、2名の監事から成り立ち、創立理念の継承のほか総括・執行機能を担います。任期は2年です。また、中核的組織として「資格委員会」、「事業委員会」が構成されています。
- ③ 「資格委員会」は、新規加盟審査、5年ごとの再審査などを行います。
- ④ 「事業委員会」は、ロゴマークの管理、種々の事業戦略の構築、プロモーション活動などを行います。
- ⑤ 各加盟町村は、北海道、東北、関東・中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄のいずれかのブロックに所属し、各ブロックから、理事を選出します。
- ⑥ 「正会員」とは、加盟した町村（自治体）、企業サポーター、組織設立に多大な貢献をした個人（3号会員といいます）が該当します。
- ⑦ この他に地域で加盟している「地域会員」があります。
- ⑧ 「準会員」は、この連合の活動を支援する企業・個人として各種の活動に参加できます。

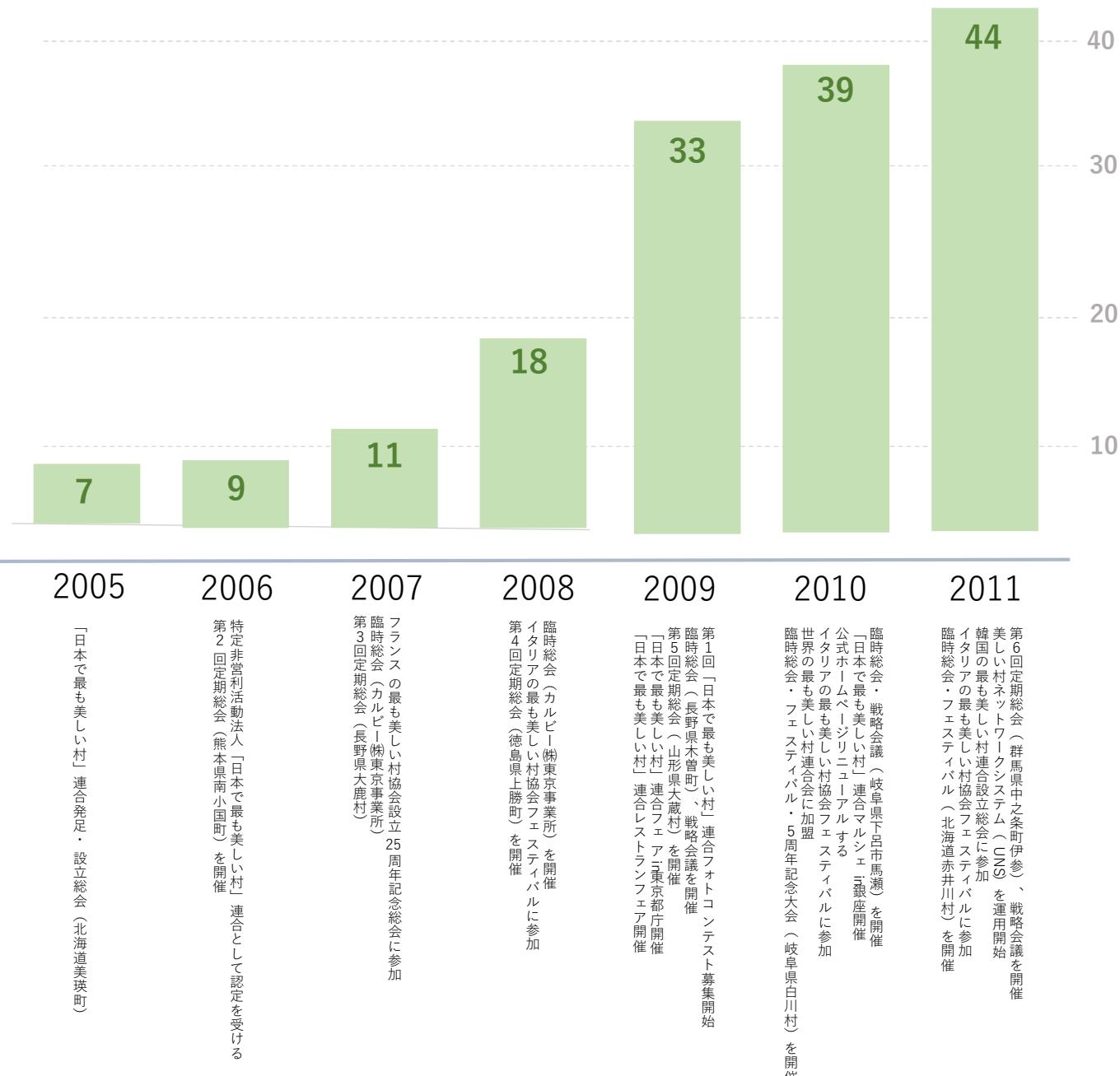
これまでのあゆみ (設立から18年)

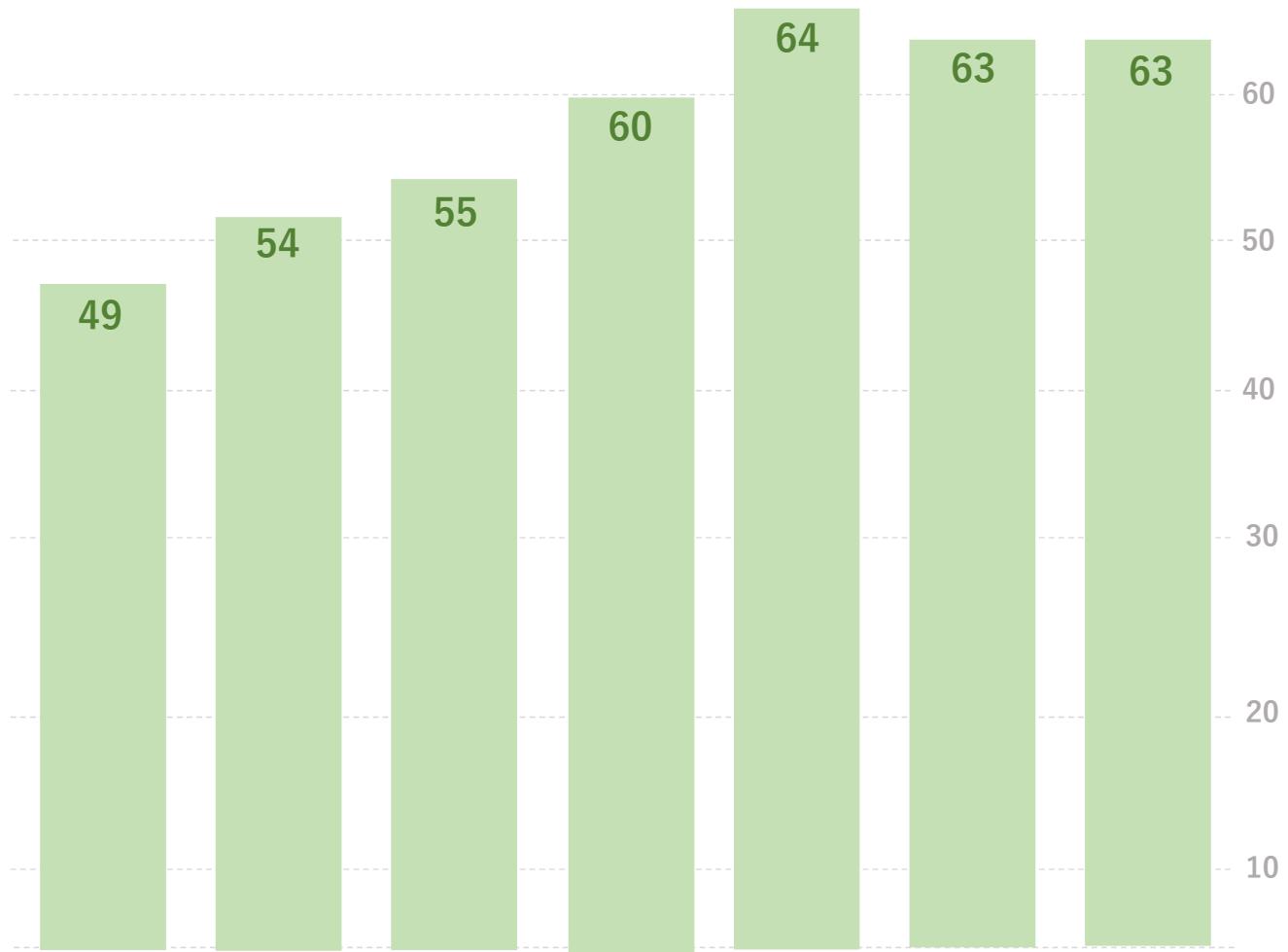
2005年、「日本で最も美しい村」連合は北海道美瑛町の浜田前町長の声掛けで集まった7町村で誕生しました。

2010年には世界の最も美しい村連合会にアジアで初めて加盟し、2015年には日本国内では初めての開催となる世界連合会の総会が北海道美瑛町で開催されました。

その地道な活動内容が認められ、19年間で58町村地域にまで仲間が増えました。現在でも多くの町村地域から加盟申請をいただき、また、昨今の国の方創生の動きも相まってか、メディアや各種企業からの問い合わせも増加しており、今後も活動の輪を広げていければと考えています。

活動の目的は、決して加盟町村数を増やすことではなく、自らの町村を誇りに思い幸せに住み続ける人が増えることにあるということを忘れず、質の向上に向け、更なる取組みを続けてまいります。





2012

東京事務所を千代田区虎ノ門に開設し、事務局機能を移す
第7回定期総会（愛媛県上島町）、戦略会議を開催
フランスの最も美しい村協会30周年記念フェスティバルに参加
法人格となつた世界で最も美しい村連合会調印式に参加
福島県飯館村「未来への翼イタリア」へ支援
臨時総会・フェスティバル（宮崎県高原町）を開催
東京事務所を千代田区鍛冶町（神田）に移転
オフィシャルガイドブック「日本で最も美しい村」を発刊

2013

第8回定期総会（長野県高山村）、戦略会議を開催
「世界の最も美しい村」連合世界大会（ベルギー・ワロン）に参加
「世界の最も美しい村」連合世界大会（イタリア）に参加

2014

「世界の最も美しい村」連合世界大会（ベルギー・ワロン）に参加
第9回定期総会（京都府伊根町）、戦略会議を開催
イタリアの最も美しい村協会フェスティバルに参加
臨時総会・フェスティバル（鳥取県北塙原村）を開催
長野県伊那市、中川村で学習会を開催

2015

第10回定期総会・世界連合会総会（北海道美瑛町）、戦略会議を開催
日仏「美しい村」シンポジウムをフランス大使館で開催
臨時総会・フェスティバル・10周年記念大会（長野県南木曽町・木曽町）を開催
オフィシャルガイドブック「日本で最も美しい村2」を発刊

2016

第11回定期総会・戦略会議（福岡県八女市星野村）を開催
臨時総会・フェスティバル（静岡県松崎町）を開催

2017

「世界の最も美しい村」連合世界大会（スペイン・アルバラシン／モレリヤ）に参加
第12回定期総会・フェスティバル（山形県飯豊町）を開催
「日本で最も美しい村」連合フォーラムをイタリア文化会館（東京）にて開催
「日本で最も美しい村」連合世界大会（フランス・ルールマラン）に参加
第13回定期総会（北海道鶴居村）を開催
「日本で最も美しい村」連合フォーラムをイタリア文化会館（東京）にて開催
「日本で最も美しい村」連合世界大会（フランス・ルールマラン）に参加

2018

「世界の最も美しい村」連合世界大会（フランス・ルールマラン）に参加
第14回定期総会（北海道鶴居村）を開催
「日本で最も美しい村」連合フォーラムをイタリア文化会館（東京）にて開催
「日本で最も美しい村」連合世界大会（フランス・ルールマラン）に参加

2019

2020

2021

2022

2023

2024

「日本で最も美しい村」連合サポーター交流会開催
「日本で最も美しい村」連合オフィシャルガイド発刊（双葉社）
「世界の最も美しい村」世界大会（ベルギー・ワロン）に参加
第14回定期総会・フェスティバル（奈良県吉野町）を開催
「日本で最も美しい村」連合フォーラムをイタリア文化会館（東京）にて開催

「美しい村のマルシェ」 in 大阪 IKEDIA (正会員合同企画)

新型コロナウィルスの影響で第15回定期総会をオンライン開催
「ライブ配信行きつけの村をつくろう」開始
「日本で最も美しい村ビューラティファルデー」の開催
サステナブル国際会議でアドバイザーを務める
リモートマレンゴ大奇沢開催

サステナブルブランド国際会議 Asia-Pacificにて登壇
「世界の最も美しい村」フランス・スペインとのオンライン交流／学習会開催
東京・丸の内KITTEにて展示開催
新型コロナウイルス感染拡大により第16回定期総会は書面決議対応
「日本で最も美しい村」連合オンライン大学スタート
フランスの最も美しい村サン・スザンヌ村とオンライン交流会開催
「日本で最も美しい村」フォトコ＆動画コンテスト2021募集開始
「日本で最も美しい村」村食材活用レシピコンテスト募集開始
ブランディング動画完成

世界の資源をもつ「しだれ木」を開催。対面での開催は2年ぶり。日本で最も美しい村まつり「TOKYO TORCH」を初開催(クラウドファンディング)に挑戦(日本で最も美しい村まつりの資金調達)。全国で「35みらい創造会議」をTOKYOを初開催。地球環境基金へ助成申請(「35みらい創造会議等の事業に活用」)

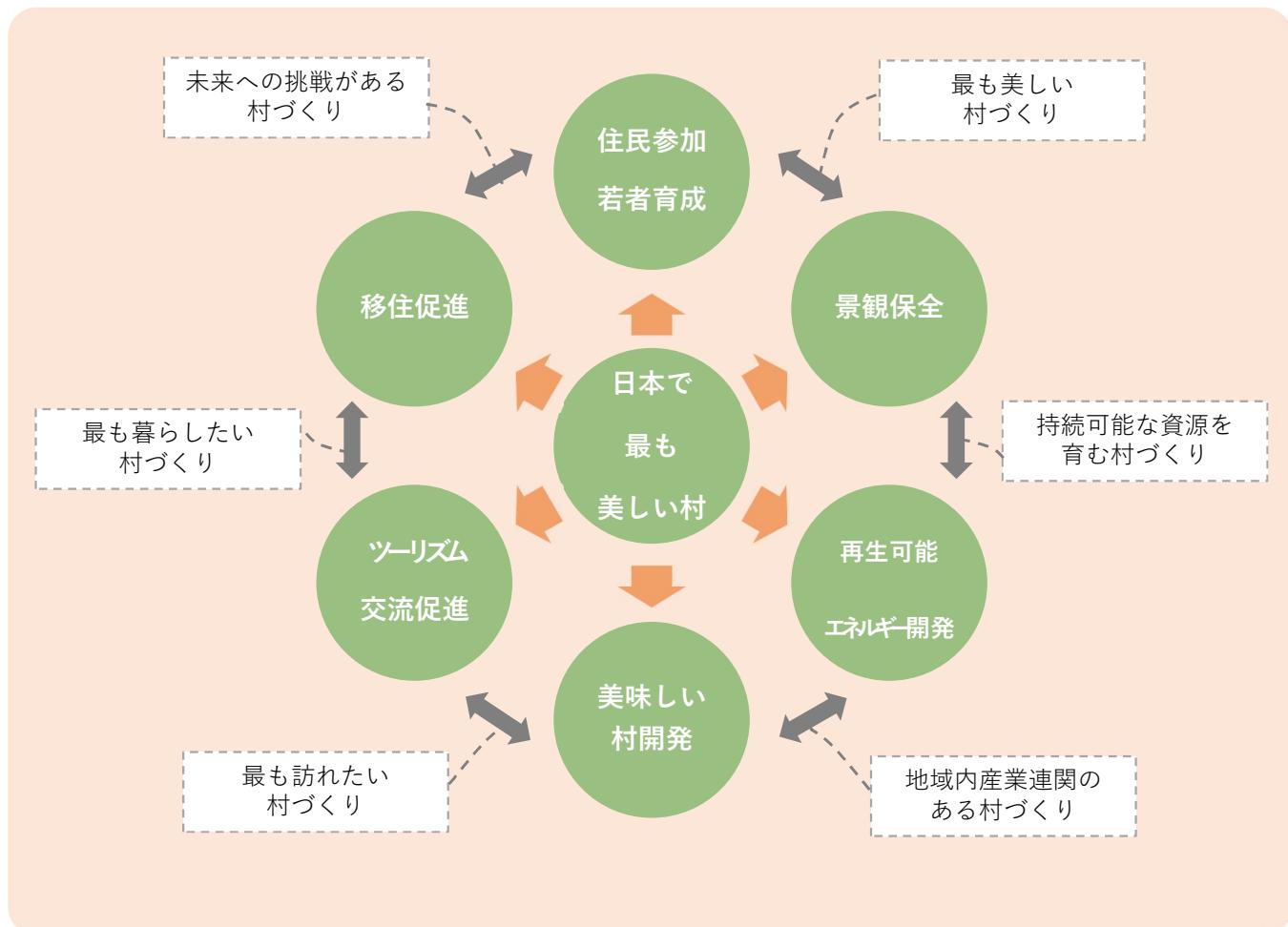
「世界の最も美しい村」世界大会（ベルギ・フロン）に参加
第19回定期総会（総会）福岡県福岡市・福岡県東峰村、八女市星野
村を開催
第3回日本で最も美しい村まつり（東京ポートシティ竹芝を開催
第1回加盟町村地域代表者会議（ビジョンセンタ－赤坂 初開催
第3回全国（35）みらい創造会議（TOKYO）を開催。

加盟町村地域の取り組み

「日本で最も美しい村」連合の3つの柱である「世襲財産」「経済的自立」「住民の自主的参加」の項目に基づいて各加盟町村の成果指標（ビジョンの達成度・人口増等）に照らし合わせて格付けを強化しています。また、その3本柱に支えられ、具体的な取り組みとして住民参加・若者育成、移住促進、景観保全、再生可能エネルギー開発、ツーリズム・交流促進、美味しい村開発を相互学習のテーマとしています。

このような共通の地域課題を持った町村同士が、相互にその経験や知恵を共有できるよう、定期的な学習会や観察を行うことも連合の重要な活動のひとつです。

ここからは、各分野で特徴的な取り組みをしている加盟町村地域の状況をご紹介します。



取り組み事例紹介

北海道美瑛町	秋田県東成瀬村	長野県南木曽町	徳島県上勝町
北海道江差町	山形県大蔵村	岐阜県下呂市馬瀬	鳥取県智頭町
北海道中札内村	山形県飯豊町	岐阜県東白川村	長崎県小値賀町
北海道標津町	群馬県昭和村	京都府伊根町	宮崎県椎葉村
青森県田子町	静岡県川根本町	京都府和束町	熊本県南小国町
秋田県小坂町	長野県木曽町		鹿児島県喜界町

次ページより事例紹介



北海道
美瑛町
Biei
Hokkaido

未来に残したい美瑛町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎びえいの丘
- ◎美瑛軟石
- ◎青い池



美瑛の美しい景観を守り育てる条例

美瑛町では、平成15年に「美瑛の美しい景観を守り育てる条例」を施行し、美しい景観が町民みんなの財産であることを認識し、その保全及び形成に取り組んできました。平成27年には条例の全部改正と景観計画の策定を行い、町内で実施される森林の伐採や建築物の新築、屋外広告物の設置などの行為において、その実施者に対し計画の内容の理解と景観形成基準に基づく届出を求めることにより、質の高い景観づくりを推進しています。

町民や来訪者を惹き付ける美瑛の景観として、農作業用の納屋や敷地境界を示す樹木などが観光資源となっています。これらを景観重要建造物及び樹木として指定し、所有者との協働のもと景観資源の保全に努めています。

また、町内の協議会を中心とした住民主体のごみ拾いやガードレールの塗装、植樹の整備などの景観修景活動にも取り組んでいます。

確かな学力の育成

美瑛町では、個別の教育支援計画の作成や複数の教職員による習熟度別学習を行っており、子ども一人一人の特性や学習状況に応じたきめ細やかな指導体制を構築しているほか、土曜学習等の実施により、子どもたちの学習意欲の向上を図っています。

また、本町の特色をいかしたふるさと学習を通じて、町の歴史や文化を継承する心、故郷に対する誇りや愛着心を育み、創造性豊かな将来の造り手となるよう人材育成に取り組んでいます。

公共交通網の維持

新型コロナウイルス感染拡大の影響による利用者の減少により、JR富良野線や路線バスの維持存続が大きな課題となっています。積雪寒冷地ということも加わり、子どもたちや免許を返納した高齢者が困らない交通サービスが求められています。

JRや路線バスをはじめとした、町内の公共交通の運行維持に向け、広域での地域間連携を促進するとともに、乗合バスやシェアカー、シェアサイクル等、あらゆる交通手段の導入に加え、人々が効率よく便利に移動することを実現するMaasなど、次世代交通サービスの導入を検討しています。

人口： 9,573人（2023年1月末現在）

面積： 676.78km²



植樹の整備



土曜学習



シェアカー



北海道
江差町
Esashi
Hokkaido

未来に残したい江差町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎いにしえ街道
- ◎江差追分
- ◎姥神大神宮渡御祭



江差町のシンボル「かもめ島」を保全・活用

江差町では、町のシンボルである自然の小島「かもめ島」を保全・活用する取組を実施しています。かもめ島の景観を保全する取組として、江差観光コンベンション協会が主体となり「かもめ島」の周辺及び浜辺の清掃活動を毎年5月～9月の間、月1回ペースで実施しています。本取組は、観光協会が率先して「かもめ島」を清掃する姿を町民に見せることで、町民のかもめ島景観保全に対する意識醸成を図り、日常的な活動へ昇華していくことを目的としており、地元企業や子連れ家族の方など、毎回30～40人の規模で清掃活動をおこなっております。協会で実施する清掃日以外でも自主的にゴミ拾いをする町民の数が増え、今年の清掃活動終盤には、清掃活動実施前から綺麗な状態に保たれていることが多く散見されました。

「かもめ島」の自然を活用した取組として、近年キャンプ需要が高まりを見せていることから、令和3年8月より豪華なグランピングテントでの宿泊・食事が楽しめる「かもめ島マリンピング」事業をスタートしました。江差町で獲れた新鮮な魚介類が堪能できるBBQに加え、カニ釣り・サビキ釣りやかもめ島のガイドウォークなどの海洋体験メニューも取り揃えています。また、手ぶらで江差町を訪れたキャンプ道具を持っていない方にもキャンプを楽しんでいただけるよう、レンタルテント・キャンプ用品・BBQ食材等一式を提供する「手ぶらキャンプ」プランもご用意しています。今後は手軽に体験できる「サップ」や「ウォーターバルーン」などの海洋体験の定着化を図っていきます。

新たなモビリティサービス「江差マース」実装化に向けた取組

町内の公共交通の現状として、14年5月のJR江差線の廃線により、路線バスを基軸とした公共交通網となっていますが、当町を中心とする南檜山地方と函館市を中心とする渡島地方を結ぶ幹線道路上にバス路線が集中していることで、一定距離内にバス停が存在しない公共交通空白地域が点在している状況にあります。当町の「高齢化率（人口に占める65歳以上の割合）」は、22年12月時点において39.8%となっており、冬場の風雪厳しい地域事情を鑑みると、高齢者が安心して住み続けられる持続可能なまちづくりのためには、公共交通の充実化が喫緊の課題となっております。町内の移動ニーズとして多く挙げられる買い物などの生活交通の充実化を図るため、公共交通及び地域経済の連携により持続可能な新たなモビリティサービス「江差MaaS（マース）」の実装化を目指した実証実験を21年度から実施しています。「江差マース」プロジェクトは、20年3月に「健康」「経済」「コミュニティ」「移動」「教育」の5つのテーマを中心とした、まちづくりに関する包括連携協定を当町と締結したサツドラホールディングス株式会社（以下「サツドラ」という。）との連携により開始し、同プロジェクトにおける実証実験では、サツドラが全道展開するEZOCAカードで初となる自治体オリジナルのポイントカード「江差EZOCA」の高い普及性を活かし、同カードによる住民の購買状況等の検証・分析を行っております。

人口：6,971人（2022年12月末現在）

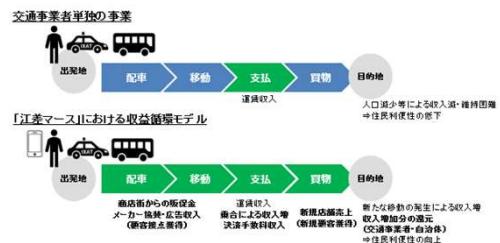
面積：109.6 km²



浜辺の清掃活動の様子



グランピングテント



「江差マース」事業スキーム



23年1月実証運行時の地域住民による乗車状況



北海道 中札内村 Nakasatsunai Hokkaido

未来に残したい中札内村の特徴～連合に登録されている地域資源～
 ◎防風保安林に守られた農村原風景
 ◎北の大地を彩るアートと文化



なかさつない景観ツアー

村の中にある景観ポイントをバスで巡り、
 うつくしい風景や、暮らしと密接に繋がる景観を発見するツアーです。2022年10月22日に開催した第4回目のツアーは、帯広の森・はぐくーむ施設長 日月 伸さんと防風林研究者 梅澤 弘一さんを講師に迎え、共栄の防風林や六花亭アートヴィレッジ中札内美術村の柏林、札内川河畔林などを巡るツアーを開催しました。当日は、参加者から多くの質問が寄せられたほか、「いろいろな樹木の説明があり良かった」「日頃見ている風景が新鮮に見えた」など声がありました。ツアー終盤では、梅澤さんから「中札内の未来につなぐ防風林」と題した講義が行われ、景観上の役割や減風効果など理解を深めました。

景観づくり・なかさつないルール

中札内村では、美しい景観づくりのために景観ガイドプランや景観条例、景観形成指針を定め、様々な取り組みを進めてきました。しかし、最近では景観が村民の意識から遠くなっています。交通の発達や農村観光の台頭などに対して、ふるさとの景観を守るために取り組みの効果を上げる必要があります。そこで、いま「景観づくり・なかさつないルール」をみんなでまとめ、みんなで共有し、守っていくことを提案します。

七色献立プロジェクト

中札内村の特定健診結果から、全国と比較してBMIや悪玉コレステロールの割合が高く、高血糖の傾向もみられることがわかりました。また、村の調査によると1日当たりの野菜の目標摂取量350gに対して村民の摂取量は100g程度少ないという結果が出ており、食生活の改善が必要な状況でした。

健康的な食生活により生活習慣病を予防して健康寿命を延伸させるために、学校や生産者、飲食店などと連携した様々な事業を行い、地域全体で野菜の摂取量を増加させるための取り組みを行っています。また、楽しく運動できるように活動量計やスマートフォンアプリを活用した健康ポイント事業も行っています。

- ・地元産野菜を使ったレシピの開発
- ・大学と連携した地域の栄養診断、地域の課題分析
- ・学校や農協青年部などと連携した料理研究会の実施
- ・活動量計で運動量を計測し、その活動量に応じてポイントを付与
- ・地元飲食店で野菜を多く使用したメニューを提供し、食べた人にポイントを付与
- ・楽しく運動できるように景観の美しいウォーキングコースを設定
- 等

人口：6,060人（2023年2月1日現在）

面積：496.9 km²



＊私たちは、中札内村に育ち、暮らし、働くことに喜びと誇りを感じています。
 ＊それ故にこの村に愛がなれると、仕事と、自然と、美しい風景があるからです。
 ＊美しい風景づくりのために、村ではH15「景観ガイドプラン」、H13「景観条例」、H15「景観形成指針」を定め、さまざまな取り組みで実現しています。
 ＊しかし、最近は、景観が村の意識から遠くなっています。交通の発達や農村観光の台頭などに対して、ふるさとの景観を守るために取り組みの効果を上げる必要があります。
 ＊そこで、今「景観づくり・なかさつないルール」を、みんなでまとめ、みんなで共有し、守っていくことを提案します。

実行元
 中札内村景観まちづくり委員会
 中札内村総務課企画課

中札内村景観まちづくり委員会と役場
 総務課が作成したルール冊子。





未来に残したい標津町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎鮭の文化
- ◎自然遺産ポー川史跡自然公園



地域全体で支える子育て

次代の標津町を担う子どもが、夢と希望を持ち、心身ともに健やかに育つことは、すべての町民の願いです。「海、山、川、大平原がおりなす感動の大地 標津町」に生まれてくる子どもたちが、家族や地域に心から祝福されるとともに、子育てを通じて喜びに満ちた生活を送ることができる環境づくりを行うため、子育てに取り組む人々と関係機関が連携し、協働により地域全体で支えています。

◎高校生までの医療費無償化

子どもの保健の向上や福祉の増進、子育て世帯への支援を目的として、標津町に住所を有する満18歳までの子どもの医療費を助成しています。

■ 対象者

標津町に住所を有する、18歳までの子ども（生活保護世帯を除く）

■ 助成の内容

平成27年4月診療分以降、医療機関で支払う金額の全額を助成

■ 助成の方法

北海道内の医療機関・薬局では、受給者証を提示すればその場で助成が受けられます。（一部未対応の医療機関あり）道外での受診、受給者証の未提示、医療機関が未対応など、その場で助成が受けられなかった場合は、役場担当窓口に申請いただければ後日助成を受けられます。

ノリウツギがつなぐ和紙生産地の吉野町と原料供給地の標津町との持続可能な新たな取り組み

国宝や重文など文化財修復に欠かすことの出来ない選定保存技術の一つに“宇陀紙”と呼ばれる手漉き和紙が奈良県吉野町で古くから作られています。その宇陀紙の原料の一つであるノリウツギと呼ばれる樹木の樹皮が、今後入手出来なくなるといった吉野町からの求めに対し、標津町では新たに樹皮の採取を始めました。

全国的にも北海道内でも希少となりつつあったノリウツギは、標津では、町内の道端のいたるところで見ることができる非常にありふれた低木で、古くにはアイヌの人々に木細工として利用されてきましたが、今ではあまり見向きもされない低木でした。

ところが、文化庁や道の林業試験場の働きかけで、その価値を見出すことができ、吉野町を始めとする様々な関係者とともに、新たな地域資源として開発を始めました。採取作業は、地元の森林組合が担い、わずかながら新たな雇用が生まれ、新たな生業としての形ができつつあります。町では、この取り組みが後世にまでつながるよう仕組みの構築とともに、町の新たな特産品としての可能性を探していくと考えております。

人口: 4,938人（2023年2月1日現在）

面積: 624.7 km²



「長野県生坂村」との中学生交流による
キャリア教育



地域の方の協力で行った
園児のハロウィンイベント



標津町で行われた手漉き和紙体験・講演会



青森県
田子町
Takko
Aomori

未来に残したい田子町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎昔の田園風景が広がる源流と水車の郷
- ◎田子神楽
- ◎日本一の「たっこにんにく」の里



にんにくを中心としたまちづくり

昭和37年に当時の田子町農協青年部の有志ら十数名がにんにくの種子を1万個購入し、田子町でのにんにく栽培が始まりました。昭和45年3月には、67戸の農家によりにんにく生産者部会が設立されましたが、その直後、作付け農家が急増したことにより、にんにくの価格が急落し、にんにく栽培をやめてしまう農家が急増しました。産地として生き抜いていくために選果規格を厳しい方針に固めたことで、昭和50年には、品質においても市場からの評価も高く、数量においても日本一となり、名実ともに「にんにく日本一」となります。平成18年には「たっこにんにく」が、東北では初の地域団体商標登録の商標登録を受けています。

にんにく生産を始めてから長い歴史を積み重ねてきましたが、生産者数と栽培面積が年々減少し、後継者不足も深刻な状況となってきた中で、「にんにくの産地」として生き残り、「たっこにんにく」のブランドを守るために、町が7年の歳月をかけて独自に開発したのが、「品種名：たっこ1号（愛称：美六姫）」です。平成29年10月24日に品種登録され、多品種との差別化や、付加価値の向上、生産拡大に寄与する救世主として、期待されています。

田子神楽の後継者育成

田子神楽は西暦1500年代の末頃より、山伏修験の人々から受け継がれてきた伝統を持つ山伏神楽であり、1576年に田子城で生まれた南部藩第27代利直公は、三戸城主となってからも三戸の大蔵院と共に田子の修験大法院に神楽を舞わせ、盛岡城に移ってからも正月16日に田子神楽を招いて春祈祷をさせ、南部藩の御用神楽にしたとされています。

歴史と実績のある田子神楽ですが、昭和50年代には後継者不足により保存会の存続が危ぶまれたこともあります。このままでは田子神楽が途絶えてしまうとの危惧から、会への女性の加入を認めるという、当時としては異例の決断がされました。反対の声も多かったようですが、師匠方のご英断により、女性の参加を認めさせたと言われています。数多くの神楽が途絶えていく中、田子神楽は後継者の養成にも力を入れています。記録が残されているものでは、昭和47年1月に町内中学校にて講習を実施、昭和50年には当時の三戸高校田子分校の生徒に講習を実施したとあります。児童生徒への養成講座は現在も連綿と続けられており、毎年5月から10月の間、月2回講座を実施し、田子神楽の後継者を育成しています。

田子町美しいまちづくり条例による取組

平成11年に田子町を含む青森・岩手県境に日本最大規模の産業廃棄物不法投棄事案が発覚し、廃棄物の全量撤去と原状回復、環境の再生に多大な時間と労力が必要となりました。この教訓から、先人の努力によって受け継いできたみどり豊かな自然環境が、かけがえのない共有の財産であることを認識し、美しいふるさとを次世代に引き継いでいくため、平成26年9月に「田子町美しいまちづくり条例」を制定し、住民、事業者、町が協働により環境美化・環境保全に取り組んでいます。

資源物収集保管施設「ストックヤード」 家庭ごみの再資源化と減量化を推進するため、町が補助金を交付し地域自治会ごとに資源物収集保管施設「ストックヤード」の設置を進めています。これにより、ごみの分別の徹底と資源物のリサイクル率を向上するとともに、資源物の販売金や報奨金を各自治会の活動経費として活用できるなど、住民の意欲向上と環境保全に繋がる活動となっています。

人口: 4,968人 (2023年1月末現在)

面積: 242 km²



にんにくとべこまつり



たっこ1号（愛称：美六姫）



女性による鶴舞





未来に残したい佐井村の特徴～連合に登録されている地域資源～
◎仏ヶ浦の眺望と生活の営みにより形成された漁村風景
◎福浦の漁村歌舞伎



日本で最も美しい佐井村づくり ビジョン&アクションプラン

佐井村 2030 「日本で最も小さく美しい漁村」を実現するために、「美しい村をつくる会」を中心に20代から70代までのメンバーが集まり、ビジョン実現にむけて重点的に実行したいアクション・プランを策定した。これらのアクション・プランには、一人でできることから、友人や同僚とできること、集落でできること、民間事業者やNPO等非営利団体が取り組めること、行政が取り組めること、そして、村民みんなで力を合わせて取り組めることなどが含まれている。村民の一人一人が誇りに思える美しい村づくりがここから始まる。

青森県佐井村産ホップ&ビールプロジェクト

佐井村のクラフトビールづくりは、「日本で最も美しい村」連合に加盟したのがきっかけです。「日本で最も小さくかわいい漁村」の実現を目指すアクションプランの中で、佐井村産のクラフトビールをつくることが明記され、2019年春から地元有志がホップ栽培をスタート。畑づくりから商品企画まで行っています。青森県唯一のホップ農家さんの指導を仰ぎながら、ホップを栽培しています。現在では、3つの商品が誕生しています。

佐井村漁師縁組事業

全国的にも漁業を取り巻く情勢は大変厳しく、漁業就業者は年々減少を続けており、漁業後継者対策は喫緊の課題となっています。本村においても例外でなく、村の基幹産業である漁業は、漁業従事者の平均年齢が60歳を超え、一部の集落を除いては、漁業後継者がおらず、十数年先の産業としての存続が危惧される状況にあります。

そこで佐井村では、漁業を今後も村の基幹産業として残していくため、漁業の担い手を外部に求め、就業希望者が経験ゼロからでも円滑に漁業に就業できるよう就業準備段階における資金の給付を行うとともに、就業相談会等の開催、漁業現場での実地による短期・長期研修、漁業活動に必要な技術習得等、求職者の段階に応じた支援を行うことで、漁業への就業と定着を図り、漁業の高付加価値化を担う人材を確保・育成することを目的として、佐井村漁師縁組事業を展開します。

■業務内容

佐井村における将来の漁業の担い手として、主に次の業務に従事していただきます。

- ① 基礎研修：漁業の基礎知識習得のため漁業後継者育成研修「竇陽塾」への入校（3ヶ月程度）
※ただし、漁業経験者は入校を必要としない場合もあります。
長期実践研修を始める前に、地域の漁業の概要や船上作業の内容、注意点など漁業のいろはを学ぶ
- ② 長期研修：漁師になるための技能・技術を漁業現場で漁業指導者の下で学ぶ（最長3年程度）
【コース】小型定置網業、一本釣り、採貝・採藻、養殖業など
- ③ 就業定着：長期研修（最低2年以上）終了後、佐井村において佐井村漁業協同組合の正組合員若しくは准組合員としての資格を取得し、新たに独立して漁業経営を開始する

人口：1,732人（2023年1月末現在）

面積：135km²



実現のため28のアクションプランが掲載



地元有志によるホップ栽培



佐井村のうに漁師



未来に残したい小坂町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎十和田湖西湖畔の自然と歴史
- ◎近代化産業遺産群と循環型社会の融合



コミュニティFMを活用した情報発信

2022年4月より小坂町も属する鹿角地域に配信エリアを持つコミュニティFM「鹿角きりたんぽFM」にて、月1回30分の情報番組『〇〇小坂！GU～N郡！！（まるまるこさかぐーんぐん）』を開始。タイトルには、まるまる30分小坂町のいろいろな〇〇をお伝えし、もっと知ってほしい、さらに好きになってほしいという願いを鹿角「郡」小坂町から届けるという想いが込められている。観光分野において通常は外向けの発信が多いが、こうして地元に根差したコミュニティFMを情報発信の場とすることで、まだまだ知られていないことを町民に広める場として活用している。

クリスマスマーケットin小坂

小坂町の冬は雪に閉ざされ、町の多くの観光施設や宿泊施設が休業となることから、冬期間（12～3月）における町の観光活性化には課題が多い。

冬期間営業を続けている芝居小屋「康楽館」や「小坂鉱山事務所」が建ち並ぶ「明治百年通り」は、町が鉱山で繁栄した明治時代をテーマとした街並みが広がり、独特的な景観を生み出しているものの、冬期間は大変ひっそりとしている。

明治時代の1873年に小坂鉱山へ赴任したドイツ人技師のクルト・ネットーは、その年にクリスマスを小坂町で開いた水彩画を残している。この年は江戸時代から続いている日本でのキリスト教禁止が解かれた年であり、この水彩画から小坂町は『近代クリスマス発祥の地』として広めるために、2013年12月から「明治百年通り」周辺を会場に『クリスマスマーケットin小坂』を開催している。

会場周辺はイルミネーションに彩られ、「小坂鉱山事務所」ではライトアップも行われている。会場ではクリスマスに関するグッズやあたたかい飲食物のマーケット（露店）が行われ、地元の園児や学生、団体によるステージイベントや作品展示が行われるなど賑わいを見せており、2022年には過去最高の5,000名の来場者が訪れ、観光に厳しい条件となる冬期間の集客に一定の成果が出ている。

人口：4,674人（2023年2月1日現在）

面積：201.7 km²



芝居小屋「康楽館」に入社をした若手スタッフにインタビューの様子



ライトアップされた「小坂鉱山事務所」。



「ワロック」（石に絵を描いている様子）



秋田県
東成瀬村
Higashinaruse
Akita

未来に残したい東成瀬村の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎田子内橋
- ◎奥羽山脈緑の回廊
- ◎仙北街道



星空日本一 学力日本一

秋田県南東部に位置し、奥羽山脈の豊かな森林と水資源に恵まれた東成瀬村。山村ならではの澄んだ空気は、平成11年には「美しい星空日本一」に認定されるほど。でもそれだけではありません。人口約2,400人の東成瀬村ですが、子どもたちの学力が高いことでも全国に知られているのです。

小さな村ならではの小中連携教育

東成瀬村では、小学校・中学校それぞれ1校という村の特徴を活かして、小中連携教育を行っています。「知徳体」のバランスをキーワードに、教員研修会の実施による指導力向上、国道沿いに「キバナコスモス」を植える心の教育、小中学生の混成チームによる「パークゴルフ・グランドゴルフ」による教育などを実践しています。

取り立てて特別なことをしていないようにみえるかもしれません。実際のところ、日本有数の学力を誇る東成瀬村の教育は、何かひとつの目玉施策ではなく、村民の総合力で実現したものなのです。職員以外に、臨時講師やALTを村独自に採用して少人数学習を提供したり、パークゴルフや授業参観には父兄のみならず地元の人たちが参加したり。驚いたことに、東成瀬村では「学校以外での学習する機会を」という保護者の声に対応し、年間20日ほど教育委員会が村営の学習塾を運営しています。学力向上の方策を探ろうと、年間約60団体500人程の教育視察者が国内外から訪れます。

グローバル夢ミーティングなど多様な教育の場を提供

バラエティにあふれた体験学習も東成瀬村の教育の特色です。「ふるさと教育」では、村出身でそれぞれの分野で活躍している方をふるさと先生として招聘し、講話や実技指導をしてもらったり、村内の事業所を訪問し、勤労体験を行うわが村体験を実施しています。「グローバル夢ミーティング」では、英語力向上やキャリア教育推進をねらいとし、秋田大学の留学生を招聘し小中学生と英語合宿を行っています。「都市の方が教育環境が恵まれている」とは言わせない東成瀬村独自の教育環境づくり。これからの方にとって示唆にあふれています。

人口：2,367人（2023年1月31日現在）

面積：203.69km²



グローバル夢ミーティングの様子。1泊2日で英語で東成瀬村のよさを紹介したり、留学生に留学動機や夢を語ってもらい、将来の夢を膨らませたり、英語で意思疎通を図ることの素晴らしさを実感してもらう取り組み。



ふるさとは自分を見つめさせ、未来に勇気と力を与えてくれることから、できるだけ子供の頃に故郷に感動し、学ぶ多様な「ふるさと教育」の機会を教育活動に取り込んでいます。



地域の方々がたくさん参加して指導してくれるパークゴルフ。



山形県 大蔵村 Okura Yamagata

未来に残したい大蔵村の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎肘折温泉郷
- ◎四ヶ村の棚田



四ヶ村棚田ほたる火コンサート

「日本の棚田百選」にも選ばれている「四ヶ村の棚田」。四ヶ村は豊牧・滝の沢・沼の台・平林の4地区を総称する呼び方です。四ヶ村の棚田は120haにも及び高台から見る風景は穏やかで、棚田の向こうには山々が屏風のように連なります。季節ごとに様々な表情を見せる棚田は日本の原風景ともいえます。この四ヶ村の棚田で毎年8月第1土曜日に開催される「四ヶ村棚田ほたる火コンサート」は豊牧にある棚田を会場に約1200本のろうそくがあぜ道に並べられ、夕暮れと共に優しい明りがともされます。広大な棚田では、そびえたった山々が反響板となり、ピアノとオカリナの澄んだ音色が響き渡る、一夜限りの幻想的な空間が浮かび上がります。四ヶ村の美しい田園風景には、生きるために大地を耕した祖先の汗と涙がしみこんでいます。特に、傾斜が急な棚田の草刈は重労働で、高齢化とともに農業を辞めていく人も増えてきましたが、この棚田を今もなお四ヶ村の住民が守り続けています。

大蔵トマト

農業は、長年にわたり本村の主要産業であり、高齢化や農家の減少などによりその将来性が危惧される中、大蔵村では元気な農家が育っています。特に、大蔵村で生産されるトマトは山形県一の生産量を誇り、関東圏の市場でも「大蔵ブランド」として高い評価を得ています。大蔵村で生産されているトマトは大玉とミニトマトがあり、6月下旬から11月上旬までの約4か月半、トマトが収穫されます。大蔵村産のトマトは甘味と酸味のバランス、果肉の質の良さが高く評価されています。特に、朝晩と日中の気温差が大きくなる秋はより甘みが凝縮されたトマトになります。大蔵村では会社員をやめ、農業を始める新規就農者もおり、農業だけで家庭を支える人も多くいます。農業は夢の持てる職業の選択肢の一つとして地域に根づいています。

教育環境の整備

本村は山形県で最も人口の少ない村です。平成27年の国勢調査の結果では、5年前と比べて村の人口は9.3%減少したものの、0歳から4歳の人口は5年前と比べて8.26%増えています。健やかな子どもの成長は地域みんなの願いです。子どもたちは、家族はもちろんのこと、地域の人々などさまざまな人たちに見守ながら成長していきます。人口の少ない村だからこそ、未来を生きる子どもたちへの想いは強く、子どもを産み・育てやすい環境づくりに努めるとともに、きめ細かな子育て支援を行っています。さらに、小学校に入学後も保健指導や食育を進めながら、学習意欲と学力の向上を図るなど、大蔵村独自の教育環境の整備を行っています。

豪雪を活かした取り組み

全国でも有数の豪雪地帯として知られる大蔵村。積雪の話題になると、決まって全国ニュースで取り上げられるほどです。平成30年2月13日には、過去最高の積雪深445cmとなりました。またたく間に降り積もり、一面が雪で覆われる中で、村には互いに助け合うあたたかな気持ちと、豪雪を活かし冬を楽しもうという気風があります。それを表すのが大蔵村の冬の風物詩、巨大雪だるま「おおくら君」です。雪を活用して何かできないだろうかという発想から始まったもので、平成7年の初代おおくら君の高さは29.43mと世界一高い雪だるまとして当時のギネスブックに登録されました。毎年、3月中旬には、「おおくら雪ものがたり」が開催され、おおくら君のライトアップや花火の打ち上げが行われます。

人口: 2,935人 (2023年1月末現在)

面積: 537.29km²



大蔵村の手厚い教育環境

・大蔵村学習教室「未来塾」
村営の学習塾を中央公民館で開講し、子どもたちの学力意欲と学力向上を図り、人材育成を目的としています。

・絵本とお話の会「フレデリック」
絵本の会「フレデリック」は保育所や小・中学校に毎月訪問し、絵本の読み聞かせを行い、絵本や本が好きな子どもたちが育まれています。

・作りたての温かい給食を提供
保育所から中学校まで各施設の給食室で調理しているため、作りたての温かい給食を子どもたちに提供しています。大蔵村の食材が多く使用されており、子どもたちが考案したメニューが献立になることもあります。



おおくら雪ものがたり



未来に残したい飯豊町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎田園散居集落
- ◎飯豊連峰
- ◎中津川地区の里山景観と里山文化



人口: 6,524 人 (2023年1月末現在)

面積: 329.41km²

地域活性化センター「地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業」

持続可能な地域コミュニティづくりに知見のある方を講師として招き、地域の課題と理想の未来像、理想を実現するために自分達ができることについてワークショップを行う。地域づくりのワークショップと共に自己実現・未来思考など人材育成のワークショップを織り交ぜることで、地域コミュニティの担い手の育成を図ると共に、若者同士の連携・連帯感を育む。ワークショップにより町・地域の担い手としての意識醸成ができた後、町の理想の将来像のためにできるアクションプランの提案や実践についても継続的に町でバックアップする。

2021年度から3年間、町からの支援を行いながらワークショップを交え活動を展開した。アウトドアチーム+e、イベントチーム、居場所づくりチームが発足し、各々の活動を展開し町内外の方からも認知される団体となった。

【アウトドアチーム+e】

町内森林資源の活用とアウトドアを掛け合わせ、人の生きる力を伸ばしていくことをコンセプトに掲げている。白川湖の水没林や森のライトアップを行い、非日常空間での滞在型アクティビティの創出を行った。

【イベントチーム】

R4.8月豪雨で被災した米坂線の早期復旧及び駅舎周辺の利活用推進のためにマルシェを実施。マルシェには延べ約500名が来場。米坂線早期復旧の署名やパネル展、中津川地区の雪室施設から雪を持ち出し、子どもから大人まで楽しめる空間を創り上げた。また、月1回の庁内各地でのごみ拾いを継続実施している。

【居場所づくりチーム】

若者が集う場所の検討、空き家を活用し、移住者との交流の場としても機能させる。町内空き店舗でのDIY活動などを実施。

家畜排せつ物等を利用したバイオガス発電事業プロジェクト

バイオガス発電所隣接の畜産施設からたたたかぬきを地下埋設パイプラインでバイオガスプラントに搬送されます。

そこで嫌気性発酵によりメタンガスを発生させ、250kWガスエンジン発電機2機で発電します。

発電の過程でたたかぬきの液肥は、近隣の牧草地や圃場に散布し、循環型の取り組みとなっています。

◆いいで未来カフェ

若者の交流と学びの場として

地域の若い世代が町の資源や課題を認識したうえで、自分たちの希望する暮らし、自分たちができること、町の未来のために必要なことを話し合う過程で、チームでリデイクルやプロジェクトの立ち上げの手法を学び、これらのプロセスを通して未来を担う人材育成を図る。



令和3年度に約30名(高校生~45歳)でスタート
年間4回のワークショップを行なながら議論を深める

◆バイオガス発電によるエネルギーの地消地産





群馬県
昭和村

Syowa
Gunma

未来に残したい昭和村の特徴～連合に登録されている地域資源～
◎河岸段丘と農村風景
◎歴史を残す家並みと横井戸



昭和の秋まつり「こんにゃく大鍋」

昭和村はこんにゃくの栽培面積が日本一であり、赤城山の裾野の広大な農地で多種にわたる高原野菜が栽培され、農業が基幹産業となっている。毎年10月に農家や各種団体の協力により、昭和の秋まつりを開催し（R2～R4はコロナのため中止）村外の方にこんにゃくや高原野菜をPRしている。

昭和の秋まつりの目玉として、約8,000人分のこんにゃく鍋をつくり、約2万人の方が来場し好評を得ている。こんにゃく鍋の他にも焼きトウモロコシや新鮮野菜の販売、農産物加工品の販売などをおこなっている。

自然環境保全活動

農地周辺の保全活動や農業用施設の維持管理など、地域資源の適切な保全活動に対して交付金の支援（多面的機能支払交付金事業）を受け、村内11組織が自然環境保全を行っている。

農道・用水路清掃、植栽整備（花植）、鳥獣害防止柵の設置、鳥獣害対策で枝などの伐採、子どもたちと看板作成など

道の駅あぐりーむ昭和内農産物直売所「旬菜館」

都市部以外の全国の地方自治体と同様、昭和村においても少子高齢化問題が今後の最重要課題となっている。昭和村の主幹産業は農業であり、農家の高齢化も問題となっている。農業に長年携わり農業技術・知識ともに長けた農業経営者が高齢化により大規模な経営ができなくなったとき、道の駅あぐりーむ内の「旬菜館」が出荷先になることにより農業を続けることができ、多品目の野菜が店先に並ぶことになるとともに高齢者の収入源となっている。

平成10年3月に関越自動車道昭和インターチェンジが開設したことにより昭和村への他市町村からのアクセスは若干良くなつたが、国道・鉄道が村内を通つて無く長年農業を主幹産業としてきた昭和村には、観光施設はほほない状況であり、集客観光施設としては「道の駅あぐりーむ昭和」があるぐらいである。道の駅では赤城山の裾野に広がる農地で栽培された野菜を販売し好評を得ているが、この広大な農地とそこから見渡せる上信越の日本百名山を含む山々を観光資源と捉え村内3カ所にビューポイントを設けて村内の景色を楽しんでいただける場所とした。

人口: 6,990人（2023年1月末現在）

面積: 64.14 km²



約8,000人分のこんにゃく大鍋



道の駅あぐりーむ昭和内「旬菜館」



松ノ木ビューポイント



未来に残したい川根本町の特徴～連合に登録されている地域資源～

◎銘茶川根茶の茶園景観

◎国重要無形民俗文化財 徳山の盆踊



高速通信回線と人柄を強みとしたサテライトオフィスの誘致

平成27年度に整備した光ファイバと高速無線によるネットワーク環境を活かして、都市圏に所在する企業のサテライトオフィスの誘致に取り組んでいる。町は県と連携し、首都圏企業の視察を受け入れるなど企業誘致に積極的に取り組んできた結果、平成29年に外資系IT企業のゾーホージャパン（株）が町内にサテライトオフィスを開所した。また、同社の定着化の支援やさらなる企業の誘致を図るため、町や県、町内事業者、金融機関などの関係者による会議体として「プロジェクトK」を立ち上げた。その後、同プロジェクトでの取組もあり、首都圏に所在するベンチャー企業2社が、相次いで町内にサテライトオフィスを進出している。こうした企業の進出により、社員やその家族の転入だけでなく、町民の雇用（町内高校からの採用含む）や今まで町内にはなかった職種の創出がなされている。また、町内高校との連携や地元事業者との協業など、さまざまな波及効果も見られる。

子育て世代の移住を目的とする「親子里山留学体験」

川根本町では、特色ある学校教育の魅力発信と子育て世代の移住者の増加を目的として、「親子里山留学体験」を実施している。一般的に「山村留学」とは、都市部の小・中学生が長期間に渡って親元を離れ、自然豊かな農山村や漁村で生活することを指す。令和4年度現在、町に山村留学制度はないが、将来的には親子里山留学の制度化を目指している。現在町内には小学校4校、中学校2校があり、いずれかの学校で在校生と一緒に授業を受ける体験ができる。

閑散期（冬季）における集客コンテンツの開発

すでに存在する地域資源をプラスアップする形でのコンテンツの開発に、地域一丸となって取り組んでいる。自然環境を活かし、臨時夜行列車を秘境駅まで運行して星空観察会を開催する「星空列車」を開催している。このイベントは、国内唯一のアート式鉄道である「南アルプスあぶとライン」に乗り、ダム湖に突き出た半島にある「奥大井湖上駅」にて下車して星空観察会を行うもので、冬季の土日を中心に運行している。近年のアウトドア人気もあり、冬季におけるキャンプ需要も高まりを見せていることから、町内のキャンプ場及びキャンプ場として利活用の可能性がある用地にて冬季営業に向けたモニターツアーを開催している。今後「冬キャンプ」の営業形態を定着化させていくことで、地域全体への経済効果の波及が期待される。

ひとり親家庭の移住促進プロジェクト「マザーポート移住」

川根本町とNPO法人全国ひとり親居住支援機構（神奈川県）は、ひとり親家庭の居住先・就労先を紹介し、町への移住を積極的に促していくために、全国初となる居住支援型移住促進プロジェクト「マザーポート移住」に取り組んでいる。ひとり親家庭の受け入れ自治体として、町営住宅をはじめとした住宅の紹介、地域の企業とのマッチング、スムーズに新生活がスタートできるサポートをワンストップで提供し、ひとり親家庭の住まい確保という課題を解決するとともに、地域企業の人材確保など地域が抱えている課題に対応していく。また、ひとり親家庭が安心して地域に根ざしていくように、子育て環境の整備をこれからも進めていき、川根本町で子どもを育てる魅力を発信する。

人口: 6,060人（2023年2月1日現在）

面積: 496.9 km²



町内に開所されたサテライトオフィス



小学校で一緒に授業を受けている参加児童の様子



「星空列車」の様子。



長野県
木曽町
Kiso
Nagano

未来に残したい木曽町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎開田高原の木曽馬
- ◎木曽街道の伝統文化
- ◎御嶽山麓の農村景観



木曽町×多良間コラボ商品 島と山のフィナンシェ

沖縄県多良間村とのコラボ商品が2022年に誕生しました。

木曽町地域おこし協力隊で日本で最も美しい村のPR活動をしており、加盟町村同士の交流を通じてコラボ商品のアイデアが生まれました。

当初は交換物産展を実施する予定でした。しかしそれでは物足りないと感じ、新しい商品としてコラボ商品を作ることを決めました。木曽町の事業者を訪ねてコラボ商品の制作依頼を行い「島と山のフィナンシェ」が誕生しました。

「島と山のフィナンシェ」は、双方の地域の特産品が盛り込まれています。

多良間村の特産品であるサトウキビから作られる黒糖を使用しています。黒糖は内陸地ではほとんどとることができないため、沖縄の象徴とも言えます。

木曽町からは、無添加の製法にこだわっている小池糀店のお味噌が使用されています。お味噌を入れることでフィナンシェにコクと風味がつきました。さらに香りづけに食用のヒノキオイルも加えています。

このような双方の特産品が交わるコラボ商品が誕生したこと嬉しく思います。

商品開発には、地元でカフェを経営されている茶房松島にご協力をいただきました。地域おこし協力隊では、食品に関する知識は全くなかった為、「黒糖と木曽町の特産品を使ってお菓子を作ってください！」と茶房松島へ依頼をしました。

無茶振りな依頼でしたが、快く商品開発を引き受けいただきました。開発依頼から数ヶ月で「黒糖×お味噌×ヒノキオイル=島と山のフィナンシェ」を制作いただきました。制作者のパティシエ松澤さんからは、「加盟町村の特産でお菓子を作る挑戦の中で新たな発見があった。この取り組みが特産やその町村を知るきっかけとなればうれしい」と商品開発に可能性があることを前向きにコメントをいただきました。今後もコラボのアイデアができた際には、協力をいただきたいです。

人口: 10,175 人 (2023年2月1日現在)

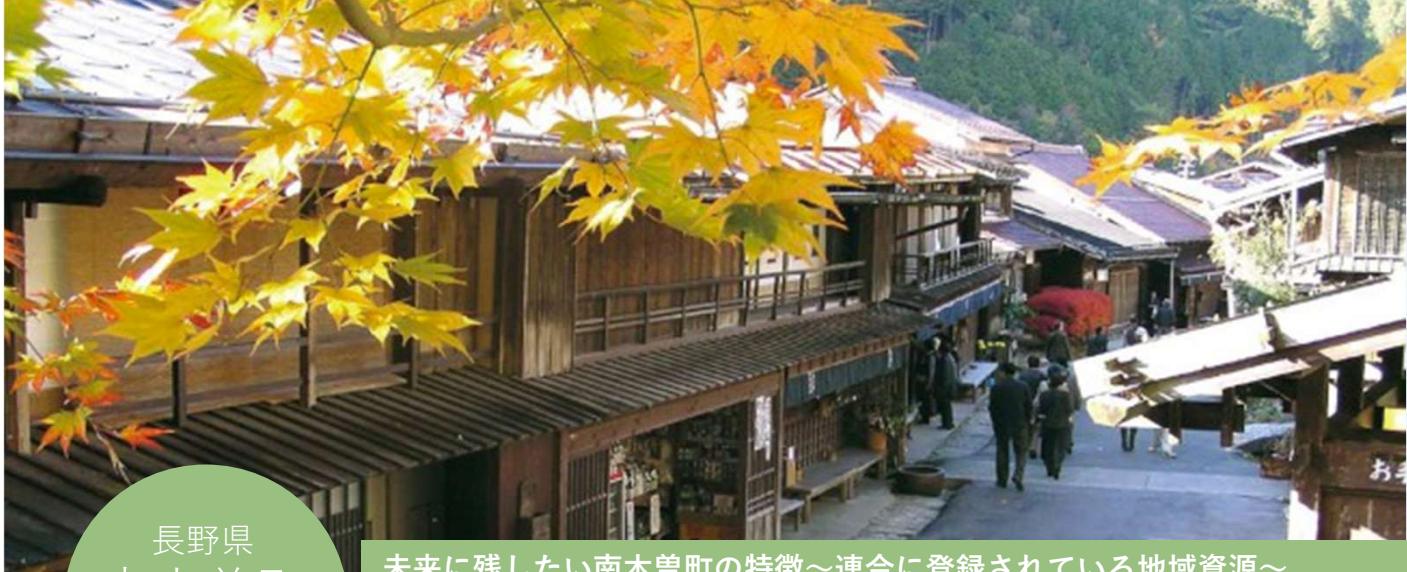
面積: 476 km²



コラボ商品開発者のカフェ「茶房松島」
右:パティシエ 松澤菜那子 氏 左:松澤成海 氏



島と山のフィナンシェ



長野県
南木曽町
Nagiso
Nagano

未来に残したい南木曽町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- 中山道「妻籠宿」
- 歴史の道「与川道」
- 田立の花馬祭りと里山景観



日本初の集落保存構想制定「保存という名の開発」

人口約4,400人の南木曽町の中で、妻籠宿保存地区の人口は668人、230世帯。中山道の木曽11宿のひとつであり、島崎藤村の夜明け前にも登場する歴史香る山間の町で、日本で初めて重要伝統的建造物群保存地区に選定された場所でもあります。現在は観光地として有名なこの町ですが、昭和30年代の高度経済成長期には、産業構造の変化により主要産業であった林業が伸び悩むようになり、若者が激減し地域の存続が危ぶまれた時期がありました。日本中から古いものが壊され、新しい物を貴ぶ時代、妻籠宿は昭和42年「保存という名の開発」を掲げ、「集落保存構想」を策定します。策定には住民リーダーの熱い想いと、大学教授などのサポートがありました。

人口: 3,857 人 (2023年2月1日現在)

面積: 215.93km²



閑散としていた頃の妻籠宿の様子。



看板も景観を配慮したものに。



環境整備作業により妻籠宿を守る意識が次世代に引き継がれていきます。



「南木曽町若者まちづくり会議」メンバーで環境美化活動

全戸加入の「妻籠を愛する会」

苦心の甲斐あって、住民の集落保存の機運が高まり、昭和43年には全戸加入の住民組織「妻籠を愛する会」が発足しました。あくまでもその場に住んでいる人を主体としたまちづくりを行うことを確認し「売らない」「貸さない」「壊さない」の三原則を申し合わせました。基本的にはこの組織が、看板規制、店舗運営などを常に議論しながら、町並みに必要な物を判断しています。それは看板などの店舗外見にとどまらず、飲食店で提供するメニューにまで及びます。集落保存の政策の難しい部分は、行政の方針と個人所有の住居や店舗の利害が必ずしも一致しないところです。その調整を円滑にする重要な役割をもっているのもこの妻籠を愛する会であり、民間主導の集落保存は議論を重ねる中で脈々と次の世代に受け継がれています。街並み保存を続けた結果、昭和45年ころには妻籠宿に想像以上の観光客が訪れるようになり、今度は外部資本が入ってくることで景観が破壊される恐れが危ぶまれました。そのため、妻籠はテーマパークではなく、人々が生活し住み続けされることこそ重要だという考えを貫くため、「妻籠を守る住民憲章」を掲げ、住民自らが厳しい看板の乱立や商業化を防いでいます。例年幾度となく行われる環境整備作業は、住民によるボランティア活動です。この作業により住民の結束力が培われるとともに、住民憲章の志が確認されています。

住民憲章に謳われている妻籠宿の座右の銘は「初心忘るべからず」です。

南木曽町若者まちづくり会議による環境整備

南木曽町内の40歳以下の若者で構成される「南木曽町若者まちづくり会議」メンバーで環境美化活動としてゴミ拾いを毎年実施しています。中山道や木曽川沿いの国道（歩道）等の環境美化を行い、実施した活動のPRと自分たちの住む町の良さをSNSにて発信しています。



岐阜県
下呂市馬瀬
Maze
Gifu

未来に残したい下呂市 馬瀬の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎馬瀬川
- ◎里山ミュージアム



景観、環境、食など8つの資源の利用による観光振興

馬瀬地域は豊かな自然と美しい農村景観に恵まれ、「清流」、「生態系」など8つの資源を有しており、これを保全利用するため「馬瀬地方自然公園」を設立し、住民活動の指針となる「住民憲章」を定めている。当協議会は、8つの資源の魅力に磨きをかけ都市と農村の交流、農泊、インバウンドの誘致により地域が経済的に自立できる地域づくりを展開している。

地区や住民の自主的活動による美しい村づくり

当協議会では、里山の景観、自然、文化などを巡る野外の博物館（ミュージアム）を2つの集落に設定している。中切地区では、住民有志による森林整備隊が、独自に景観ポイント周辺の花木林の整備、歩道やベンチを備えた住民公園の整備を行い、また森林造成組合が市道周辺を修景するため、針葉樹林を伐採し広葉樹の植栽に取り組んでいる。西村地区では、ホテルや道の駅など観光施設があるため、地区住民が集落修景計画を作成し道路や住家周辺の森林で間伐や花木植栽を行、農道法面には景観観作物（水仙）を植栽している。

廃校活用による雇用の場の確保や地域福祉の向上

馬瀬地域では平成年代に入り児童生徒の数が減少し、小学校2校の統合、中学校1校の廃止が行われた。その後の廃校の活用は山間地で企業等の立地等には条件が悪く時間を要したが、次第に美しい景観や環境の存在、「日本で最も美しい村」の取り組みなどが理解され、外部から進出した企業が工場などに活用し地元の雇用の確保、地域福祉に貢献している。

集落で競う草刈りコンテストと景観づくり

馬瀬地域では昔から集落の人々が共同で農道、水路、河川敷、生活道路、広場などの公共的な場所の草刈りを行い集落の美観維持に努めてきた。集落人口の減少、高齢化が進み重労働の草刈りは住民に負担となっている。当協議会は草刈りを少しでも楽しみながらできる方法として、平成19年から9つの集落対抗で草刈りの出来栄えを競い表彰する「草刈りコンテスト」を実施してきている。令和3年からは、新たにSNS（LINE）を利用し、訪れた観光客等も気軽に馬瀬の景観保全に参加（投票）できる取り組みを行っている。コンテストにより、草刈りに対する関心ややる気も出ている。今後は「最も美しい村」のユニークな取り組みとして情報発信をする。

当協議会では、「花の名所づくり」と銘打って、観光客の多い道路周辺の休耕田に所有者の了解を得て地区（集落）の住民と共同で景観作物の水仙の球根を植え新たな景観ポイントを増やす取り組みを行っている。令和3年からは最も美しい村連合の主唱する「ビューティフルディ」と連携して実施し、今後馬瀬地域の重要な美しい景観づくりとして観光振興にも役立てる。平成28年以降、3集落の4か所の休耕地・荒れ地等に水仙球根18千球を植栽している。

人口：1,072人（2023年再審査時）

面積：64.93km²



馬瀬地方自然公園 8つの資源(馬瀬の宝)



中切里山ミュージアム(民話と祈りの里)



岐阜県富加町の金属加工メーカーの「豊実精工」が廃校を活用。



休耕地に水仙球根の植栽(惣島地区)



岐阜県
東白川村
Higashisirakawa
gifu

未来に残したい東白川村の特徴～連合に登録されている地域資源～
◎白川茶文化
◎東濃ひのきの里



フォレスタイル事業 注文受注ポータルサイト Forestyle

フォレスタイルは、平成22年度から運用されており、「東白川村の木を使って、東白川村の工務店が建てる産直住宅」をお届けする事業です。

このシステムは、平成20・21年度地域ICT利活用モデル構築事業で、総務省から岐阜県東白川村が委託を受けてシステム構築した建築受注を促進するためのウェブシステムです。ホームページを通して、家のイメージづくりから工務店や建築士選びのサポート（無料）、さらに施工中から建てた後も村の職員がずっと寄り添います。自治体運営の安心感に加え、優良な木材の産直価格での提供、「東濃ひのき」の柱のプレゼントなど、林業の村ならではの多彩なメリットで納得の家をお値打ちに建てることができる仕組みとなっています。

【ポイント】

- ①概算建築費がわかる間取シミュレーション機能
- ②家づくりにかかる豊富な情報提供
- ③質と価格を両立させるための建築士・工務店選択制度
- ④アフターメンテナンスまで支える便利なマイページ機能
- ⑤Web利用で獲得できるお得なポイント制度

森は私たちにさまざまな恩恵をもたらしています。綺麗な水や空気は、日本の豊かな森林が支えていると言っても過言ではありません。しかし、意外にも、森が元気に存在し続けることは、国産の木を使った住宅建築が担っています。なぜなら、国産材を適度に消費すること、そして林業の良好な経済環境が保たれることが、日本の森林を維持するためには不可欠だからです。森がもたらす綺麗な水や空気といった自然のめぐみ。農山村に暮らす私たちが、私たちならではのサービスを提供させていただくことで、国産材の家に住むご本人はもちろん、日本に住む多くの方にも、そのめぐみをもたらしたい。それが私たちの願いです。

◇全国村長サミットにおいてグランプリの村オブザイヤー受賞（平成26年）に選ばれ、総務省による地域情報化大賞も受賞。

東白川村移住定住事業（つながるナビ・東白川村Rrule事業）

令和元年度から、空き家バンク制度の充実や、空き家の利活用に関する支援制度の見直し、村への空き家の寄附の受け付け拡大と、村による家財処分作業の請負など、所有者等が抱える課題解決と移住希望者による空き家の利活用の推進により、地域の保全と持続可能なむらづくりを総合的に取り組んでいます。

◆東白川村リユース事業◆

「東白川村リユース事業」は、今までの空き家利用者に対する補助制度（家財処分費用と改修費の助成）を根本から見直し、利活用できる空き家は全て東白川村が寄附を受けることを

可能とします。寄附をいただいた空き家において、家財等の処分は全て村で行いますが、リユースできる家財等はストックしておき、空き家バンク利用者に無償で提供する仕組みづくりを構築しました。

人口: 2,104人 (2023年1月末現在)

面積: 87.09 km²

フォレスタイルHP画面

シミュレーター画像

これまでの事業実績（バンク登録数等）

12

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
移住相談	19	15	17	27	31	41	200超	107	180
バンク相談		4	2	5	6	10	30	10	20
バンク搭載		1	0	2	3	3	2	12	10
メール登録数							80	127	225
移住体験							9組25人	4組9人	8組20人



京都府
伊根町
Ine
Kyoto

未来に残したい伊根町の特徴～連合に登録されている地域資源～

◎伊根浦舟屋群
◎伊根祭（亀島区祭礼行事）



予約型乗合交通運行事業～再エネで走る予約型乗合交通「いねタク」～

2022年（令和4年）4月から従来のコミュニティバスを廃止し、住民や観光客の利便性向上のため予約型乗合交通「通称：いねタク」の運行を開始した。自家用旅客有償運送（交通空白地有償運送）の仕組みを活用し運行する「いねタク」は、乗降場所と時間が指定できるため、待ち時間のないスムーズな移動が可能となり、小中学生の通学や、高齢者の診療所への移動手段として、また、観光者が観光施設から観光施設までの移動手段として活用されている。また、「いねタク」は電気自動車を活用しており、役場庁舎横の太陽光発電設備で発電された電気を使用しているため、自家用車から「いねタク」に切り替えることでCO2排出量の削減につながる。

人口：1,945人（2023年1月末現在）

面積：61.95km²



地域課題解決のための住民参画

そんな舟屋ですが、道路整備などで地盤が変化したために崩壊の危険性が発生。また、人口の高齢化や産業構造の変化、漁業従事者の減少などから、未利用・低利用のものが増加してきました。しかし、アンケートを実施したところ8割の住民がこの景観を守りたいという意向を示しており、この景観を守るためにも、観光に力を入れることとなりました。特徴的なのが住民自ら景観保護活動を行っている点です。住民ボランティアによる清掃活動が行われ、ガードレールの塗装も住民の手により実施されています。



SS活動（整理、整頓、清掃、清潔、習慣）の取組み。
地域住民他町内外からボランティアを募り、清掃活動及びガードレールの塗装を実施。



町が舟屋を活用して整備した宿泊施設の内観

舟屋等を活用した滞在型観光施設整備

従前から舟屋のある伊根地区に宿泊したいというニーズはあったが、高齢化等要因により宿泊施設が減少していました。

そこで、舟屋を活用した宿泊施設を新規開業するのにネックであった「京都府福祉のまちづくり条例」について規制緩和を働きかけ、伝統的または特徴的形式の造りを残している建物については条例適用除外にしていただき、舟屋等を活用した宿泊施設をモデルケースとして令和元年7月に町が整備しました。

その波及効果でコロナ禍にあるものの8棟の宿泊施設（舟屋物件3棟含む）新規開業がありました。

公設民営による飲食店等整備

町内に飲食店が少なく、民宿開業サポートのヒアリングでも「食事提供が負担となっている」という意見も寄せられる等課題となっていた。そこで、公設民営の食事提供施設を整備し、食泊分離スタイルの定着を図っている。その結果、食事提供をしない素泊まりの宿の開業も進んでいる。

＜町が整備した公設民営の食事提供施設＞

2017.4.11 舟屋日和オープン

2018.4.1 舟屋食堂オープン

2022.4.21 食事処うらなぎ丸オープン

※重要伝統的建築物群保存地区…文化財保護法により「周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの」とされる文化財の中でも、優れたものを国（文化庁）が選定し市町村の主体性を尊重して、都市計画と連携しながら、歴史的な集落や町並みの保存と整備を行う制度のこと。（出典：文化庁HP）

京都府
和束町
Wazuka
Kyoto

未来に残したい和束町の特徴～連合に登録されている地域資源～

◎多様な茶畠景観と瓦屋根の集落が一体となった茶源郷

◎鎌倉時代から継承する茶文化



鎌倉時代から続く茶源郷

和束町の獨特な景観は、農地と集落が明確に分離されておらず、家屋の傍まで茶畠が迫っており、まるで茶畠の中に町があるよう見えるところ。これも急傾斜を手鋤で開墾した先人たちの努力の結晶といえます。その景観は、京都府景観資産の第1号登録を受け、また文化庁より「日本遺産～日本茶800年の歴史散歩」の一部として認められました。そこでも評価されているのは単なる自然景観ではなく、人々の生活の中から生み出される、生業景観であるということです。人々の生活文化と景観が融合している代表例のひとつと言えるでしょう。

まちのコンシェルジュ「和束茶カフェ」

中でも重要な役割を果たしているのが、茶農家が集まってできた協議会により運営されている「和束茶カフェ」。ここでは来訪者が和束を知りたいというときに上記のような様々なプランの提供窓口となったり、和束町の茶農家さんの商品を試して購入することができるという、ワンストップサービスを提供しています。さらに、その名の通り、お茶と茶団子を気軽に楽しめるカフェサービスも提供しており、散漫な印象を与えるがちな多方面の活動のコンシェルジュ役を果たし、情報発信の質を高めているといえます。その甲斐あって、和束茶カフェの訪問者数は増加、販売額も設立当初の約1.3倍以上に増加しています。近年では独自の文化と産業を中心としたインターンシップ制度も整備し、和束ファンの確保とともに、後継者育成へと繋がっています。

グリーンスローモビリティ

和束町は、京都府南部に位置する人口約3,700人の小さな町です。宇治茶の主産地でもあり、茶業を中心としたまちづくりを進めています。町内に鉄道は無く、唯一の公共交通機関である路線バスは1時間に1本程度の運行であることや、バス停から集落の距離が離れていることから住民の利便性が良くないのが現状です。また、日本遺産の認定を受けて様々なメディアで取り上げられるようになり、観光客が増加傾向にあります。茶畠は山間部に位置し、道路は狭小で坂道が多く茶畠景観にアクセスするための公共交通がありませんでした。

そのため、自家用車による茶畠景観への来訪が多く、駐停車両の増加は農作業の支障になっていました。そこで、観光による自動車移動量を抑制するとともに地域を訪れた方が、安心・安全で、景観を楽しむだけでなく、土地の空気やお茶の香りなど五感で楽しんでいただきながら、ゆっくりと周遊いただくための新しい交通手段としてグリーンスローモビリティの利用を確立し、地域住民の利便性の向上と新たな観光サービスと地域内外の交流人口の増加を目指し導入をしました。

平成29年度から令和2年度まで実証実験を行い、観光ルートで1,146人、住民向けルートで270人の利用があり、アンケート結果から観光ルートでは幅広い年齢層の利用があり、全般的に高評価で特にガイドの説明が評価されました。これは、自動車で来訪して景観を楽しむ以上の付加価値がつき、自動車の抑制が期待できます。また、ルート上の観光施設や商店で停車することによって土産物の購入につながる点も確認されました。

令和3年度は、冬場を除いた4月から11月・3月の土曜日・日曜日・祝日の運行で、1日4便、有料で1周約70分の茶畠周遊コースで運行しました。新型コロナウイルス緊急事態宣言による休止の影響で合計42日の運行で314人の利用がありました。

人口: 3,590人(2023年2月1日現在)

面積: 64.93km²



急斜面にまでびっしり敷き詰められたような茶畠。



和束茶カフェでお茶を購入し、隣の公園の天空カフェで、和束町を一望しながらゆっくりすることもできます。



グリーンスローモビリティ



未来に残したい上勝町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎樫原の棚田
- ◎彩（いろどり）農業
- ◎山犬嶽



ゼロ・ウェイストによる持続可能なまちづくり

未来の子供たちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2003年に焼却・埋立ごみ0を目指した「ゼロ・ウェイスト宣言」を行いました。「ゼロ=0、ウェイスト=浪費、無駄、廃棄物」という意味で、限りある資源を大切にし、ごみの発生抑制を考えた生産と消費が行われる社会を目指しています。2020年にはゴミステーションが上勝町ゼロ・ウェイストセンターとしてリニューアルオープンし、くるくるショップ（無料のリサイクルショップ）や交流ホール、体験宿泊棟なども併設したゼロ・ウェイストの情報発信拠点としてスタートしています。

葉っぱビジネス"いろどり"

"いろどり"とは梅や紅葉など季節の葉や花などを、日本料理で季節感を演出するために添えられる"つまもの"として商品化したものです。町の豊富な自然資源をいかしたビジネスで、商品が軽量なので女性や高齢者でも負担なく取り扱うことができます。また、(株)いろどりが生産者・農協・市場をネットワークで結び、生産者はタブレットを使用して受注を受け、出荷品目や出荷量を調節しながら供給を行っています。現在の全国シェアは約80%ほどです。

上勝阿波晩茶の継承

珍しい乳酸発酵させてつくられるお茶で、黄金色で少し酸味のあるすっきりした味が特徴です。昔ながらの製造方法では、手で摘み取り、大釜でゆでて、木の箱船を使って人力で茶葉をすり、樽につけ込み、太陽でぱりぱりになるまで乾燥させると完成です。その伝統的な製造技術が、日本の茶をめぐる食文化を考える上でも注目され、2021年3月に国の重要無形民俗文化財に登録されました。現在は高齢化や人口の減少で生産者が少なくなっていますが、上勝阿波晩茶協会が桶のオーナー制度を開始し、一般の方が製茶を体験できたり、自分のお茶をつくれるなど上勝阿波晩茶の普及に取り組んでいます。

子育て世帯支援

人口の減少や少子高齢化が進行する中で、住み続けたい町、移住したい町を目指して、少しでも子育てしやすい町にするためさまざまな支援策を用意しています。

移住者支援

いきなり移住はハードルが高いかも、と思う人のためにお試し暮らしができるシェアハウスがあります。食料以外の生活に必要なものはそろっているので、ここを拠点にいろいろなところを訪れて、上勝町での暮らしをイメージしてもらうことができます。また、子育て世帯の移住者向け支援として児童転入支度金として1世帯につき30万円の支援金があったり、上勝町で農業や起業を考えている人には農家体験や上勝起業塾などもあり、上勝町で新規就農を考える人や新しいビジネスに挑戦したい人などのサポートもあります。

人口:1,422人(2023年2月1日現在)

面積:109.6 km²



上勝町ゼロ・ウェイストセンター



レンコン葉収穫の様子



子育てしやすい様々な支援

〈保育料の軽減〉

- 第1子:0から2歳児(通常料金)、3から5歳児(無料)
- 第2子:0から2歳児(半額料金)、3から5歳児(無料)
- 第3子:以降(無料)

〈入学祝金〉

- 小学校:10万円
- 中学校:10万円

〈誕生祝金〉

- 第1子:10万円
- 第2子:20万円
- 第3子:30万円



鳥取県
智頭町
Chizu
Tottori

未来に残したい智頭町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎石谷家住宅を中心とする智頭宿
- ◎芦津渓谷
- ◎板井原集落



百人委員会

百人委員会は、智頭町が誇る住民自治力に着目した取組です。教育や商工、林業など、分野別に7つの部会が結成されており、部会ごとに町民が身近で関心の高い課題を話し合い、施策を行政に提案します。毎年の提案会では、町民が町執行部に対して直接提案を提出して議論が行われ、可決された施策については予算が付き、事業を町民自ら実践します。成果としては、「森のようちえん」「木の宿プロジェクト」があります。また、2014年度からは地域の中学生・高校生・大学生など、百人委員会学生の部も行われており、公園の設置（中学生の部）や古い町並みの残る智頭宿での藍染め暖簾の設置（高校生の部）などが行われてきました。町民自らが町の未来を描いていくこの取組は、本町の大きな魅力のひとつとなっています。

人口: 6,420人（2023年1月末現在）

面積: 224.7 km²



中学生の企画提案会の様子。町執行部と直接意見を交わします。



おせっかい奨学生と町職員の交流の様子



コネクテッドカー車内のモニターで健康相談を利用する住民



運転手と利用者

おせっかい奨学パッケージ制度

智頭町は「おせっかいのまちづくり」を宣言しました。山間部に位置する本町では、高校や大学等の進学で子ども達が町外の学校に通う場合が多くなっています。町を離れる子どもたちが町に帰ってきてほしいという気持ち、大人たちの町に帰ってきてほしいという願いを叶えたいという思いから、このパッケージができました。「おせっかい奨学生」となった子どもたちは、有利な金利の「おせっかい奨学ローン」で生活費を補填することができ、交通費などが多くかかる中山間地域特有の不利な環境の改善を図ることができます。利子については全員が補助の対象、元金については10年以内にUターンした場合は補助の対象となります。また、町から子どもたちへのサポートも行っており、おせっかい奨学生には町職員がメンターとして学業や就職などの様々な相談に乗るほか、交流会やインターンなどのイベントを随時案内しています。

智頭Miraizeプロジェクト

町面積の9割が森林の山間部に位置する智頭町。高齢化率が4割を超える中、役場や病院から離れた集落に暮らしており、行政サービスを受けづらい高齢者の生活維持が課題となっています。そこで、町に暮らすすべての人々が、これからも末永く安心して暮らせるように、智頭町では令和4年度に「コネクテッドカー」を利用した住民サービスを始めました。コネクテッドカーは、どこからでも行政とオンラインでつながる設備を搭載した特殊車両で、基地局によっては高速・大容量通信規格「5G」も利用できます。集会所などに出向き、健康相談や電子申請に対応するほか、災害時には移動できる災害対策本部として活躍することが期待されています。智頭町では、デジタル化の推進で人々の生活を持続可能な形で支えます。

智頭町AI乗合タクシー（共助交通）

「共助」とは、「地域の人々が協力して助け合う」という意味。智頭町AI乗合タクシー（共助交通）は地域住民が主体となって自家用車等を活用し、有償で互いに運送を行う仕組みです。また、AIで運行管理を行うことで、従来のバスなどの公共交通よりも効率よく配車を行うことができます。智頭町では、人口減少・高齢化が進み、多くの地域でバスなどの公共交通の維持が難しくなっています。こうした中で、本町の住民自治の力を活かし、持続可能な交通手段の確保ができる次世代の交通の仕組みとして、AI乗合タクシーの導入を進めています。※令和5年春頃に本導入予定。

長崎県
小値賀町
Ojika
Nagasaki



未来に残したい小値賀町の特徴～連合に登録されている地域資源～
◎野崎島と旧野首教会
◎西海国立公園の景観と歴史



おぢかアイランドツーリズム

「おぢかアイランドツーリズム」は、アイランドツーリズム協会エコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムからなる日本初の観光協会で五島列島の小さな島「小値賀（おぢか）島」で活動する特定非営利活動法人です。

私たちは、観光をとおして小値賀の魅力を伝えるため、小値賀のワンストップ窓口として観光のご案内から、自然体験、民泊、古民家事業など、旅を総合的にプロデュースしています。

豊かな自然や民泊体験を通じて関係人口、移住・定住者増につながっており、2年連続転入者が転出者を上回っています。

おぢか未来会議

シビックプライド（郷土愛）を持たせるようにするために、「おぢか未来会議」を開催している。子どもでも小値賀をどのようにしていきたいかなど、インターネットから簡単に回答できるような仕組みづくりを検討中。

『SEA you againプロジェクト』

「海洋プラスチックごみ問題」解決に向けての取り組み『SEA you againプロジェクト』。『SEA you again プロジェクト』では、正しいプラスチック製品との関わり方をはじめ、広く海洋ごみ問題を知ってもらうこと、共に考えることを目的としています。

『SEA you againプロジェクト』で今回製品化したのは、石けんケース「mu（ムー）」。永く環境問題に取り組む、福岡県北九州市にある無添加石けんのパイオニア「シャボン玉石けん」にもご協力いただき、4社がコラボした石けんケースが誕生しました。一見、海洋ごみ問題と関係ないように思われるがちですが、島の暮らしに石けんの排水は大きな問題。

直接海に流れるからこそ海洋ごみ同様、自然に帰るものでなければならないはずです。

「石けんケース／mu（ムー）」は、実際に海岸で採取した石から整形しています。

手に馴染む大きさ・サイズを追求するところから生まれました。

人口: 2,238人(2023年3月1日現在)

面積: 211.63km²



修学旅行、視察研修旅行受け入れも実施



おぢか未来会議



「石けんケース／mu（ムー）」

「mu」は「無=0」という意味で、ゴミという言葉を「0（ゼロ）」にする。海洋ごみを「0（ゼロ）」にする。そして、今回石けんケースにセットし販売を行う「シャボン玉石けん」の「無添加=0」の意味も込められています。素材は100%海洋プラスチック。ですから一つとして同じ色や柄の製品はありません。



宮崎県
椎葉村
Shiiba
Miyazaki

未来に残したい椎葉村の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎椎葉神楽
- ◎焼畑
- ◎十根川地区の瓦屋根の集落景観



教育と連携した文化継承

椎葉村を代表する焼畑農業。焼畑農業とは、50a～1ha程度の区画の森林を伐採し火入れを行い、焼け跡に1年目がソバ、2年目はヒエカアワ、3年目に小豆、4年目に大豆の輪作を行い、4年間栽培すると再び20年ほど放置し、地力の回復を待ってまた火を入れるというもの。連作障害を避け肥料も農薬も使わない、持続可能・循環型の農耕文化の原点といえるシステムです。火入れ前のお神酒や祝詞の儀式など、自然に対する畏れや敬意も力強く息づいています。

この焼畑が原始的な形で見られるのは日本で唯一椎葉村のみ。しかし、農家の高齢化も進み焼畑を営む農家はたった一軒となっていました。村ではこの歴史・民俗を維持していくと小学校でも焼畑体験学習を行っています。

人口: 2,363人(2023年2月1日現在)

面積: 537.29km²



小学生の活動の様子。焼畑後、そばの種まきを行っているところです。

継承される神楽とコミュニティの結束

また、椎葉村では神の降臨した日向國らしく、23地区で神楽が舞われており、冬の風物詩となっています。神楽を継承し続ける、このコミュニティの結束が、厳しい条件下での農林作業を支えたと言われています。近年では、この独自の文化に惹かれて移住してくる若者も増加傾向にあるため、これまでのコミュニティだけでなく、移住者と地域の若者（35歳以下）で語り合う場を設けています。対話をすることにより、移住者は村のことを深く知るとともに早く地域に馴染み、在住の若者は移住者の視点で話を聞くことで地域資源の見直しや魅力を改めて認識する良い機会になっています。

広域連携で世界農業遺産登録を実現

椎葉村は、高千穂町、五ヶ瀬町など近隣3町2村と連携し、1988年より「フォレストピア」という複合型農林業の振興計画を実行しています。2015年には、焼畑や神楽などの伝統的な地域資源が認められ、日本で7つ目の世界農業遺産登録を果たしました。今後もそれが推進力となり文化が持続していくことが期待されています。

Katerie（椎葉村交流拠点施設）

日本三大秘境椎葉村に、未来への巣箱のような交流拠点施設ができました。

Katerie（かてりえ）という名前が意味するのは『かてーりの家』。『かてーり』とは椎葉の伝統的な助け合いのこと。蕎麦刈りや田植えなど、みんなで協力し合って暮らしを守ってきた村人たちの心のよりどころとなってきた素敵な言葉です。村人たちはもちろん、遠くからここを訪れる人たちとも優しい交流がたくさん生まれることを願って、そう名付けました。

Katerie（かてりえ）のなかには、椎葉村図書館「ぶん文Bun」・交流ラウンジ・キッズスペース・ものづくりLab・クッキングLab・会議室（大／小）・コワーキングスペース・コインランドリー・シャワーブース…と、いろんな使いができる機能が満載です。



対話会の様子



Katerie内の椎葉村図書館「ぶん文Bun」



熊本県
南小国町
Minamioguni
Kumamoto

未来に残したい南小国町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- ◎黒川温泉郷
- ◎草原と小国杉



人口: 3,844 人 (2024年3月31日現在)

面積: 115.9km²

まちの人事部機能の創出による人材還流促進及びデータバンク構築・利活用事業

【課題背景】

- 中山間地であるため、人材が集まりやすい都市部と比較して、人材の流動性が限定的であり、新規の人材獲得のハードルが高い。
- 小規模な事業者（家族経営等）が多く、事業者単独での採用・育成・定着にかけられる経営リソースが限定的である。
- 町内には様々な特色ある地域資源等はあるが、これらの掘り起こしやコーディネート等を主体的に推進する人材や仕組みが不足している。

【事業概要】

- 新たな雇用創出に向けた事業に取組み、各産業の担い手不足解消を図る。
- 労働力の需給に関するマッチング体制を整備し、町内における人材育成の横断的な実施につなげる。
- 人材の地域内での活動を測定できる仕組みを整備することで、人材マッチングの精度向上につなげる。
- 地域で横断的に活躍できる人材を育成し、地域の課題解決や人手不足解消を図る。

【具体的な取り組み】

○人材流動化による新たな雇用創出事業（地域越境人材の継続的な配置）

- 新たな雇用創出事業（しごとコンビニ）の深化・高度化を図り、労働力の需給に関するベストマッチングを高精度で実現する体制の整備
- 大手企業に向けた地域越境研修の実施

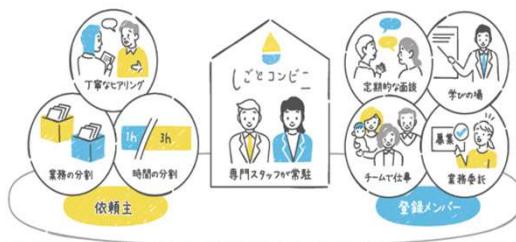
○地域越境人材データバンク事業（地域越境人材の評価・再配置）

- 地域越境人材のデータバンク化やデータバンクを活用した地域越境人材の新規案件組成等

○法人との関係構築事業（法人の地域越境の創出）

- 地域との共創を希望する企業との継続的な関係構築

九州初上陸！「しごとコンビニ®」南小国町で導入開始



「しごとコンビニ®」概要



「しごとコンビニ®」
登録会の様子



鹿児島県
喜界町
Kikai
Kagoshima

未来に残したい喜界町の特徴～連合に登録されている地域資源～

- 隆起サンゴの豊かな自然と農業景観
- 阿伝集落のサンゴの石垣



人口: 6,347人(2024年4月30日現在)

面積: 56.82km²

サンゴ留学制度

【課題背景】

人口減少や少子高齢化が進む中で、島の関係人口を増やすことや地域資源の次世代への継承が課題となっている。喜界町には日本初のサンゴ礁研究に特化した「喜界島サンゴ礁科学研究所」があることを強みに、「サンゴ留学」で島の魅力である環境（サンゴ）を生かした教育活動を進めることで、留学する生徒および保護者を通じて喜界島の認知度が広がり、島の人たちも島の魅力を再認識することで喜界島への愛着が高まり、人口問題の解決や地域資源の保存・活用に寄与することが期待される。

【事業概要】

「サンゴ留学」とは、喜界高等学校に3年間通いながら喜界町が指定する寮に入り、喜界島サンゴ礁科学研究所の研究者と一緒に、喜界島をフィールドに研究をする留学制度。サンゴ留学生たちは2年次から自分の中の好き・知りたい・不思議のもと、個人の研究テーマを持ち、自分の研究を進めていく。「サンゴ礁に関わる研究がしたい」「海が好きだ」「海洋環境保全に関わりたい」といった想いがある生徒を受け入れており、留学生は平日に1回と土曜日にサンゴ礁科学研究所主催のサンゴ塾に通っている。

【具体的な取り組み】

●サンゴ留学コーディネーターの雇用

島根県海士町の高校で3年間を過ごした島留学経験のある人材（令和4年当時19歳）を、サンゴ留学コーディネーターを担う地域おこし協力隊として雇用。

●サンゴ留学生の募集

サンゴ留学コーディネーターとサンゴ礁科学研究所スタッフがサンゴ留学のオンライン説明会を実施し、広く周知。

→令和5年度は16名の応募があり6名の生徒が入学、令和6年度は13名の応募があり6名の生徒が入学した。現在、高校1年生2年生合わせて12名のサンゴ留学生が暮らしている。

●サンゴ留学生のサポート

学校との連携、サンゴ塾のサポート、留学生の生活面のサポートを行っている。



世界の最も美しい村連合会

The Most beautiful Villages of the World

「日本で最も美しい村」連合は、2010年に「世界の最も美しい村連合会」に加盟、日本以外には、フランス、イタリア、ベルギーのワロン、スペイン、スイス（2024年正式加盟）が世界連合会に正式加盟しています。各国の最も美しい村協会は、独自のシンボルと言えるロゴマークを保有しており、そのロゴマークが各国の最も美しい村の特徴を表しています。世界連合会には、各国内での5年以上の活動成果を評価して入会が認められています。



世界大会調印式

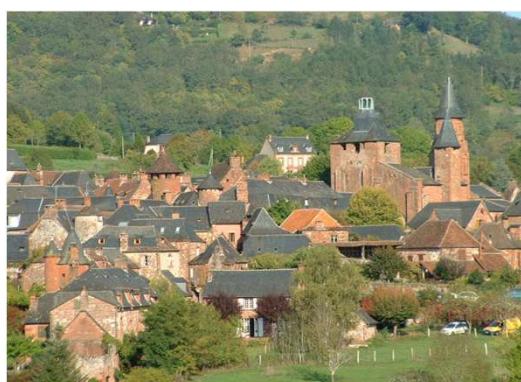


世界で最も美しい村総会ロゴマーク

フランスの最も美しい村協会

(1982年設立)

フランスは、コミューン（基礎自治体）が36,697（2011年1月）も存在する地方分権型社会。古くから歴史的文化財や世襲財産は法的に保護されてきました。一方、日本と同様に、美しい村であっても過疎化や高齢化は急速に進みました。1982年に64の村で始まったフランスの最も美しい村協会は、歴史的財産などの地域の特色を観光資源として付加価値を高め、小規模な農村を保護する運動を広めるためにネットワーク化を図り、協働してプロモーション、コミュニケーションを行なう場として設立されました。国の政策としてもコミューンの存続は「フランスの文化遺産」として合併政策が転換され、広域連携へと進みました。協会本部はコロン・ラ・ルージュ (Collonges-la-Rouge) の村役場にありますが、資格審査の事務局はクレルモンフェランにあるなど機能は分散しています。2015年末現在、155の村が加盟しています。村の加盟は審査委員が審査を行い、品質委員会で合否が判定されます。再審査で基準を満たさない村は除名される等、フランスで最も美しい村協会加盟がステータスとなっています。「フランスの最も美しい村」の共通的な特徴は地域全体の建物の同質性や周囲の自然環境に同化した集合景観です。



リムーザンのコロンジュ・ラ・ルージュ(フランス)



フランスの最も美しい村ロゴマーク

イタリアの最も美しい村協会

(2001年設立)

イタリアは基礎自治体（コムーネ）が8,100あり、中規模の自治体が多く、各自治体は将来を見据えて都市計画図を作成、これがまちづくりの基本となっています。イタリアの最も美しい村協会が設立されたのは2001年。以降地域活性化の柱として、ツーリズム産業や修景事業に注力して順調に成長を遂げ、2014年末現在、245の村が加盟しています。協会本部は代表加盟町村の役場にあるのではなく、首都のローマに本部を設けて専任の事務局長を置き、ブランド力強化に向けたプロモーション戦略や「最も美しい村」の観光価値を評価してくれる市場のマーケティングや客先開拓、海外展開に力を入れています。イタリアでは国や県の補助金は修景コンテストで決まる事が多く、都市計画図に修景プランを落とし込む事が加盟コムーネの大変な仕事であり、協会全体としてもサポートしています。「イタリアの最も美しい村」の共通的な特徴は開放的で明るい台地上の建物の集合景観や山、湖、海、農村の雄大な景観。「最も美しい村」の収益モデルを定め、何処で稼ぎ何に投資するのか、「最も美しい村」の観光価値を評価してくれる市場のマーケティングや海外展開に力を入れています。



カスティリオーネ・デル・ラーゴ(イタリア)



イタリアの最も美しい村ロゴマーク

ワロン(ベルギー)の最も美しい村協会

(1994年設立)

ベルギー南部フランスと国境を接する仏語圏のワロン地方には自然豊かな小さな村が点在し、24の村が、「ベルギーの最も美しい村」として登録されています。協会の設立は1994年と仏に次いで古く、数十人から数百人規模の小さな自然豊かで伝統的な家が並ぶ村が選ばれているのが共通的な特徴ですが、5つの州ごとに異なる顔も持っています。エノー州は森に囲まれた自然豊かな環境、ナミュール州は砂岩や石灰岩の淡い色の家々が、ブラバン・ワロン州は白い石ゴベルタンジュの家が、リエージュ州は牧草地・渓谷など自然が美しく、リュクサンブルー州は石灰岩で作られた家々の外壁が季節毎の花で埋まります。



ワロン(ベルギー)



ワロン(ベルギー)の最も美しい村ロゴマーク

LES PLUS BEAUX
VILLAGES
DE WALLONIE

スペインの最も美しい村協会

(2011年設立)

「スペインの最も美しい村協会」はスペインの地方部をサポートし、地方の人口増加を促進する目的で2011年に設立されました。2019年現在、79の美しい村々が加盟しています。審査基準は厳しく、45の基準をクリアしなければなりません。駐車場に関する基準や花壇に関する基準等、多岐にわたる審査項目があり、まちとして、建築として価値あるものを提供しなければなりません。中世の村やローマ時代の村、海辺の村や山岳の村...加盟する村それぞれが、知られざるスペインの最高の姿を代表しています。芸術、歴史、芸術的遺産、美しい景観、伝統、味など...ユニークで忘れられない旅の体験を与えてくれます。79すべての村がスペインの国から認定された建築や自然遺産を有しています。全改修された建物よりも、歴史的建造物の方が優先され、美的に均質的であることが求められます。



アルバシン(スペイン)



スペインの最も美しい村ロゴマーク

スイスの最も美しい村協会

(2015年設立)

2015年に設立されたこの協会は、連邦および公国において人口1万人未満の最も美しい自治体をネットワーク化し、その魅力を高め、その振興に努めています。美しさに加え、歴史、景観、調和、持続可能性、地元産品といった多様な品質憲章に基づき村を審査し、審査に通過した18州50村が加盟しています。スイスとリヒテンシュタインに点在する、絵のように美しい村や町々。ティチーノ州モルコテの海岸松林からヴァレー州グリメンツの氷河、ベルン州エルラッハのブドウ畑まで、、、スイスで最も美しい村々は、驚くほどの多様性と豊かさを誇ります。マッジョーレ湖畔のアスコナやレマン湖畔のサン・サフォランといった有名な村々だけではなく、エンガディン地方南部のチュリンやヴァレー州北部のアルビネンのように、小規模ながらも非常にユニークな村々の存在も見逃せません。またフリブール・プレアルプス地方の伝統的かつ有名なグリュイエール村のグリュイエールチーズや、トッゲンブルクのリヒテンシュタイン村の美味しいケーキにチョコレートウエハースといった美食の楽しみも言うまでもありません。つまり、誰もが楽しめる何かがあり、その多様性こそがスイスで最も美しい村々の特徴なのです。



ベルギューン(スイス)



ボスコ・グリン(スイス)



ケベック（カナダ）の最も美しい村協会

(1998年設立)

ケベック州最も美しい村協会 (APBVQ) は 1998 年に設立された非営利団体で、ケベック州の村の自治体における建築的及び歴史的遺産の保存と発展、また景観の質を守ることを目的とした文化団体です。素晴らしい景観の中にある本物の建築遺産の美しさを紹介し、ケベックの観光活性化における重要な役割を担い続けることも目的としています。

現在は 11 の観光地域にまたがる 40 の美しい村で構成されています。



タドウサック・チャペル(ケベック州)



ランス・ア・ボーフィスの港(ケベック州)



ケベック(カナダ)の最も美しい村ロゴマーク

サポーター企業/個人

「日本で最も美しい村」連合の活動は多くのサポーター企業や個人からの会費、ご寄付から成り立っています。利害関係ではなく連合の哲学に共感してご寄付をしてくださる方が多いのが特長です。

■企業正会員：63社（2025年9月現在）

カルビー株式会社
伊那食品工業株式会社
中日本氷糖株式会社
株式会社 新進
カルビーポテト株式会社
タイコー株式会社
株式会社地域科学研究所ホールディングス
株式会社 プランナー・ワールド
株式会社 博報堂
有限会社 エイチ・アイ・エフ
株式会社 アデリー
喜界島酒造株式会社
株式会社 昇夢虹
株式会社 グラムスリー
松谷化学工業株式会社
三浦工業株式会社
株式会社 霧島町蒸留所
株式会社 祁答院蒸溜所
株式会社 太洋商会
マイホウ食品株式会社
六合の里温泉郷組合
タイム技研株式会社
株式会社 蓬萊軒
DM三井製糖株式会社
株式会社 叶匠寿庵
株式会社 ブナの里振興公社
丹後海陸交通株式会社
キャリーシステム株式会社
井村屋グループ株式会社
美瑛町農業協同組合
佐久間建設工業株式会社

株式会社石井実業
株式会社 琉球補聴器
株式会社アドバンテック
曾爾村観光協会
株式会社日本エム・アイ・エー
株式会社 五勝手屋本舗
コーデックケミカル株式会社
有限会社 エクサピーコ
株式会社 米匠庵 地域活性化研究所
株式会社グリンバレー
株式会社鶴居村振興公社
株式会社タテヤマ
株式会社 北岡本店
株式会社JAPAN PROPERTY nationwide
株式会社 沖縄教育出版
株式会社 北海道産地直送センター
生和糖業株式会社
株式会社エフ・プロジェクト
株式会社シーピーアール
株式会社 New K R H
有限会社 良平堂
株式会社ごっつお便
ハジメ産業株式会社
一般社団法人リスクファイナンス研究所
一般社団法人 国際自動車交流協会
株式会社 福菱
丸良工業
三和工業株式会社
東成瀬テックソリューションズ株式会社
株式会社 Office Me
キンピカ株式会社
株式会社 佐々木建設

■準会員：287個人・企業・団体

会員交流会（サポーター交流会）

会員（企業/個人）と加盟する町村地域の交流機会を設けています。



会員特典と支援の方法

「日本で最も美しい村」連合の運営資金は加盟町村の他、個人・企業サポーター様からの会費で賄われています。この美しい風景、残すべき景色を守るために、「日本で最も美しい村」連合では、皆様のご協力を必要としています。サポーター会員には、正会員と準会員の2種類があります。

正会員（企業・団体のみ）

■会員特典

- ①定期総会で議決権を有します
- ②入会後に会員証（A4サイズ）をお送りいたします（別途15,000円税別をご負担いただきます）
- ③「日本で最も美しい村」連合公式HPや公式パンフレットに企業・団体名を掲載させていただきます
- ④「日本で最も美しい村」連合の季刊誌（年4回発行）及びカレンダー（年1回）をお送りいたします
- ⑤「日本で最も美しい村」連合のロゴマークをご使用いただけます（使用申請必須）
- ⑥会員交流会にご参加いただけます
- ⑦その他、「日本で最も美しい村」連合が主催する行事に参加いただけます

■年会費：1口 **100,000円**～／年

■お申し込み方法：

正会員のお申し込みは郵送又はメール（info@utsukushii-mura.jp）でお願いいたします。

【入会手続き】
入会申込書のダウンロードはこちら！

- 1) 入会申込書に必要事項をご記入のうえ事務局にお送りください。
- 2) 事務局から会費の振り込み依頼書をお送りいたします。
- 3) 会費のご入金確認後、会員証などをお送りいたします。

※入会申込書はHPからダウンロードできます。



準会員（企業・団体・個人）

■会員特典

- ①入会後に会員証（A5サイズ）をお送りいたします（別途3,000円税別をご負担いただきます）
- ②「日本で最も美しい村」連合の季刊誌（年4回発行）及びカレンダー（年1回）をお送りいたします
- ③「日本で最も美しい村」連合のロゴマークをご使用いただけます（使用申請必須）
- ④会員交流会にご参加いただけます
- ⑤その他、「日本で最も美しい村」連合が主催する行事に参加いただけます

■年会費：1口 **5,000円**～／年

■お申し込み方法：

準会員のお申し込みはホームページまたは、郵送にて受けたまわります。

【ホームページの場合】※上記入会手続きのQRコードからサイトにアクセスください。

お支払いいただく口数を選択し、寄付口数（任意）、ディスクパネルの有無を選択して「会費を決済して準会員に登録する」をクリックしてください。

【郵送の場合】

- 1) 入会申込書に必要事項をご記入のうえ事務局にお送りください。
- 2) 事務局から会費の振り込み依頼書をお送りいたします。
- 3) 会費のご入金確認後、会員証などをお送りいたします。

寄附金のお願い

当連合は、より公益性が高く、会員の皆様にも有利な認定NPOの取得を目指しており、取得要件であります寄付金額3,000円×100名以上の条件をクリアする必要があるため、会費とは別に3,000円の寄附金についてもご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2023年度活動の概要紹介



▲第18回定期総会（北海道標津町）に全国から約160名が参加し、加盟町村や会員の交流を図った。



▲加盟町村担当者会議を開催し、先進事例を学ぶ研修を実施。担当者同士の繋がりの場にもなっている。



▲世界の最も美しい村総会が京都府伊根町、和束町で開催。世界総会には日本を含め7カ国が参加した。



▲日本で最も美しい村まつりをTOKYO TORCH（東京都）を開催。伝統芸能披露などを実施した。



▲ビューティフルデーという名で、美しい村運動の原点である村をきれいにする活動を全国の加盟村で実施。



▲『10年後、どんな故郷であってほしいか』をテーマに村在住の35歳以下の若者が議論する会議を全国各地で開催。1月には東京で全国会議も開催した。

お問い合わせ

NPO法人「日本で最も美しい村」連合 事務局
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1丁目10番4号丸石ビル

TEL 03-5577-5943
HP <http://www.utsukushii-mura.jp>
Mail info@utsukushii-mura.jp